


令和6年度
補正予算

「リカレント教育エコシステム

構築支援事業」補助金事業



産業成長を支える 大学リカレント教育成果集

目次

領域	大学名	開催地域	プログラム名	
半導体	広島大学	全国・広島	広島大学半導体リカレントアカデミー	p.3
	九州大学*	福岡	半導体経営人材育成プログラム	p.6
	九州工業大学	福岡	半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開	p.9
グリーンエネルギー	長崎大学	長崎	産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業	p.12
	九州大学*	福岡	洋上風力エンジニア等育成プログラム	p.16
バイオ・ヘルスケア	大阪大学	全国	Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想 ～REACH x バイオDX x ビジネスデザイン～	p.19
	千葉大学	全国・千葉	ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテックマスター育成プログラム	p.22
マーケティング	早稲田大学	東京	CMO Program	p.26
DXプロ	北海道大学	北海道	社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成ー ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化ー	p.29
	早稲田大学	全国・東京	スマートエスイーAIトランスフォーメーション: 生成AI産学エコシステム	p.32
GXプロ	北海道大学	北海道	グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築	p.36
	立命館大学	全国・大阪	GXプロフェッショナル + Rプログラム	p.40
SCMプロ	流通経済大学	東京	SCMプロフェッショナル人材育成プログラム	p.47
	東京大学	東京	SCMリカレント教育プログラム	p.50
経営人材向け	早稲田大学	東京	The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)	p.53
	東京女子大学	全国・東京	自信をもって、ビジネスの中心に	p.56
	一橋大学	東京	社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム	p.59
	事業構想大学院大学	東北・東海・関西・九州	地域構想力育成プログラム	p.62
	武蔵野美術大学	全国	Value Creation Program for Leadership	p.64
その他/建築DX	九州大学*	徳島	建築DX人材育成プログラム	p.68
複数テーマ	神戸大学	全国	異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム	p.71

*九州大学: 採択プログラムは同一のものだが、複数領域を展開

広島大学半導体リカレントアカデミー

プログラム概要

① 名称

- 広島大学半導体リカレントアカデミー

② 目的

- 半導体企業の持続可能な成長を支援
- 半導体業界と関連する業界の長期的な発展に貢献する人材を育成

③ 対象者層

- 半導体製造現場でのオペレータ人材(技能職)から開発人材・設計人材(技術職)
- 半導体業界での活躍を希望する他業界の人材

④ 育成する人物像

- 高度なスキルを持ち、半導体産業の発展と拡大に貢献する高度半導体人材
- 半導体の作製全般（設計、プロセス、評価）すべてに精通する人材

申込方法

- 下記サイトから申し込み
<https://www.rise.hiroshima-u.ac.jp/semicon-recurrent/>

担当連絡先

- 広島大学半導体リカレントアカデミー
Mail : info@semicon-recurrent.com

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- スキルとレベルが異なる受講者に合わせた4つのプログラム**
 - 半導体製造企業での就業のための技術基礎から最先端の半導体産業の全体像を網羅したプログラムを設置
 - 産業界のニーズを踏まえた技能職人材から、高度な開発のための技術職人材の育成を目的としたカリキュラムを設計
 - 受講者は繰り返しプログラムを受講することで高度半導体人材へ成長が可能
 - 座学と実習を組み合わせた実践的なプログラムを実施
- Web中継・VRコンテンツも活用したりリモート実習**
 - 実習は基本対面で実施し、WebやVRコンテンツを活用したりリモート参加も可能

② アピールポイント

- 半導体を受講者自身で設計、作製、評価**
 - 半導体を設計し、専用設備（クリーンルーム）で作製し、その性質を評価することで実践的な知識と経験を獲得
- それぞれのプログラムの修了時に修了バッジ(デジタルバッジ)を発行**
 - 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

広島大学半導体リカレントアカデミー

プログラム内容

プログラム名

- 半導体初等実践プログラム（4つのプログラムのうちの1つ）

プログラム写真



クリーンルームでの太陽電池作製



実験室での性能評価

受講者数

- 10名

実際のプログラム実施内容

- 半導体初等実践プログラム基本的な半導体デバイス（太陽電池）について実習を伴う学習
- 太陽電池の利用シーンや動作原理について座学で学習
- クリーンルームで太陽電池の作製プロセスを体験
- 受講者が太陽電池の一部(電極)をデザインし、実際に作製
- 作製した太陽電池の性能評価（効率コンテスト）

成果サマリー

満足度

- 83%（「非常に満足」「満足」と回答した受講者の割合）

受講生を輩出した企業の声

- 今後の研修コンテンツの進化、展開において非常に有益である
- 半導体の製造工程や検査などの実体験を学習し、今後の業務に活かしてほしい。
- 半導体プロセスにおいて、現在の担当以外のプロセスについて体験を伴って学修してほしい

受講生の声

- ウエハー製造から最終製品に至るまでの一連の流れを体系的に学ぶ機会はなかなかなく、非常に貴重で有意義な講義でした。
- 実際に作業、体験し自分で成果を感じ取る事が出来たので実習としての満足度は大きかった。
- プロセス全体を俯瞰できた点が特に印象に残っております。

波及・今後

- 来年度もクリーンルームでの実習を伴う、本プログラムを継続実施・拡大予定
- 発展版である半導体CMOS実践プログラムの受講を推奨

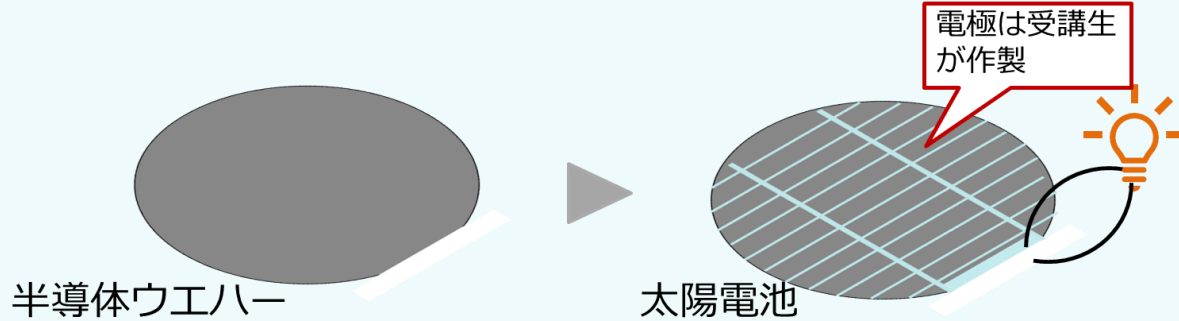
広島大学半導体リカレントアカデミー

プログラム詳細

プログラム名

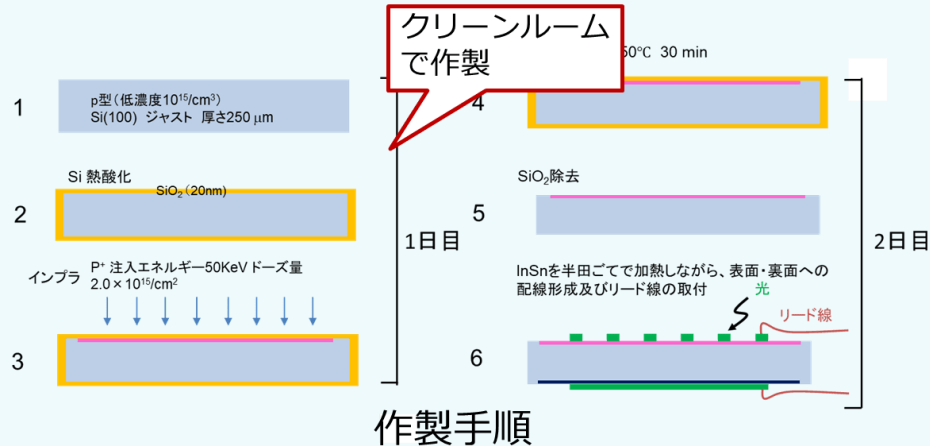
- 半導体初等実践プログラム (4つのプログラムのうちの1つ)

プログラムイメージ



半導体ウエハー

太陽電池



作製手順

プログラムカリキュラム

日	時間	内容	場所
1日目	8:45 - 12:00	研究所紹介、安全講習、太陽電池の解説	半導体産業技術研究所 Jイノベ棟1F
	12:50 - 17:05	太陽電池作製	半導体産業技術研究所 クリーンルーム
2日目	8:45 - 17:05	太陽電池作製	半導体産業技術研究所 クリーンルーム
3日目	8:45 - 16:05	太陽電池電極作製、効率等の特性計測	半導体産業技術研究所 Jイノベ棟 2F

半導体経営人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 半導体経営人材育成プログラム

② 目的

- 半導体技術の動向や産業ダイナミクスの知見を有しつつ、事業環境の地政学的変化や需要構造の変動、事業の市場性や競争優位性を踏まえ、組織をリードできる経営人材の育成プログラムの開発と実施を目的とする

③ 対象者層

- 半導体関連企業、半導体ユーザー企業における部課長クラス

④ 育成する人物像

- 半導体技術や産業の動向の知見と、専門性の高い経営の知見を併せ持つという、これまでの半導体業界に希少であった人材
- 個社戦略に留まらず業界戦略を描き我が国の半導体業界の再興・長期進展を担える経営人材

申込方法

- 九大OIP株式会社リカレント教育グループ
- (トライアル研修は招待制にて2025年11月～12月に募集)

担当連絡先

- 目代武史：九州大学ビジネス・スクール教授
- Email: mokudai.takefumi.076@m.kyushu-u.ac.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

次世代経営人材向け経営教育プログラム

- 半導体産業における価値創造と価値獲得の両軸を回すカリキュラム (“技術力の基盤のうえに経営の武器を手に入れる”)
- カリキュラムは、半導体を取り巻く業界ランドスケープの理解、経営判断に必要な知識と技法の習得、越境的経営人材コミュニティの形成の3つのレイヤーで構成
- 正式プログラムは、約3か月全10回、対面での集合研修を予定 (2025実施のトライアル研修は全4回)

半導体バリューチェーンを構成する多様な企業からの参加者による自社/自業界を超えたネットワーキング

- 本プログラム参加後も相互に支え合える次世代経営人材コミュニティの形成

② アピールポイント

- 学びを継続できる環境 (九州大学ビジネス・スクール進学、短期エグゼクティブ・プログラム履修、価値創造型半導体スペシャリスト特別プログラム等への接続)

半導体経営人材育成プログラム

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 23名（トライアル研修14名、1日限定オープン参加9名）

実際のプログラム実施内容

- トライアル研修4回（終日研修）：リーダーシップ開発（講義＋個人/グループワーク）、半導体設計ビジネスゲーム（グループワーク）、企業財務/投資戦略（講義＋個人/グループワーク）、半導体サプライチェーンと地政学/経済安全保障（講義＋グループワーク）

成果サマリー

満足度

- 93.0%（アンケート結果）

受講生を輩出した企業の声

- 「技術者出身の管理職にとってROICやNPVなどのファイナンスの考え方、サプライチェーンと経済安全保障などを統合的にとらえる視点は新鮮で、経営視座を高める内容であった」（半導体メーカー）
- 「社内研修はやってきたが、本プログラムのような他社との他流試合の機会は貴重であり、社員派遣の大きな理由」（半導体物流）
- 「有料プログラムでは派遣元として成果・価値の説明責任が重くなる。『良い研修』以上の言語化が必要」（半導体メーカー）

受講生の声

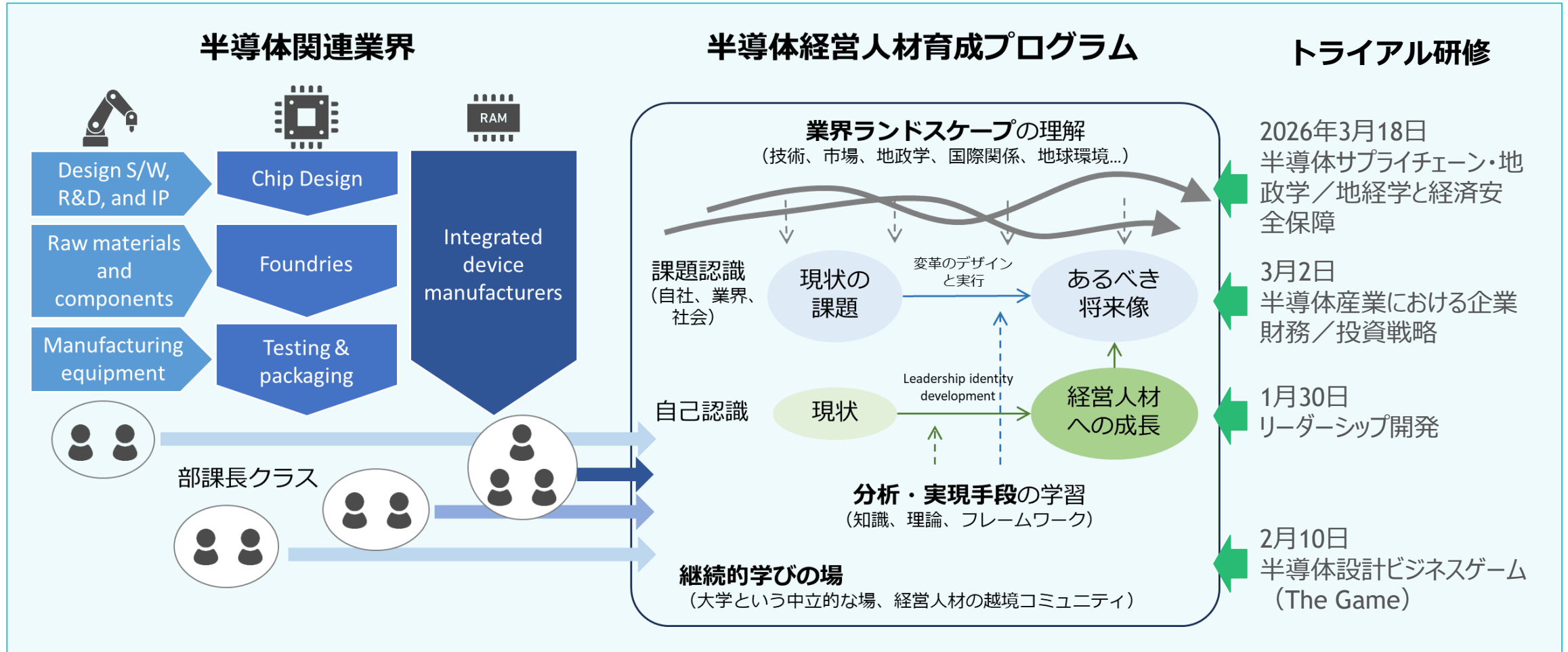
- 「今までの投資計画に対しまったく違う考えが見つかった」（半導体商社）
- 「色々な会社の職種の違う方とのディスカッションは非常にためになりました」（半導体装置メーカー）

波及・今後

- 2026年度に正式プログラム（全10回、3か月）を実施予定
- 大学等における半導体研究室との交流、台湾半導体産業とのネットワーキングを検討中

半導体経営人材育成プログラム

プログラム詳細



半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開

プログラム概要

① 名称

- 半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開

② 目的

- 半導体分野へさらに人材・資源・投資が結集するエコシステムの構築

③ 対象者層

- 非技術系の企画・営業職、公的機関、金融関係者、さらには半導体分野への新規参入を目指す会社経営層・投資家等

④ 育成する人物像

- 半導体製造技術や製造工程の全体を俯瞰できる非技術系高度人材
- 技術系社員とも高度な専門的コミュニケーションが取れる半導体関連企業内の事務・企画・営業職
- 半導体関連の新規技術の価値や可能性について、自ら判断能力と理解力を持つ金融・公的機関関係者及び投資家
- 自社の強みを活かし半導体分野への新規参入をめざす会社経営層

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- https://www.cms.kyutech.ac.jp/edu_process

担当連絡先

- 九州工業大学 マイクロ化総合技術センター
Mail : seminar@cms.kyutech.ac.jp Tel : 0948-29-7580



マイクロ化総合技術センター
Center for Microelectronic Systems

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

- 半導体の製造技術と一連の工程のイメージを把握できるカリキュラム
 - マイクロ化総合技術センターにおける製造技術一貫教育の実績とノウハウをベースに、近年参加が急増している非技術系者に特化した理解度や教育効果の向上を図った新カリキュラムを設計・提供
- 講師派遣＋遠隔中継・動画＋実測定による現地対面形式
 - 前工程＋後工程＋測定実習(4日間)を、1～3日で短縮実施



動画＋遠隔中継による試作実習



セミナーでの録画資産



実試作チップによる測定実習

B アピールポイント

- 高い臨場感と参加者のニーズ・理解度に応じた柔軟な実施
 - 修了者にはデジタルバッジを発行。希望者は上級の実参加型実習セミナーへの接続も可能

半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開

プログラム内容

プログラム写真



動画 + 遠隔中継による半導体試作実習

実試作チップによる測定実習

受講者数

- 62名（金融・電力関係、半導体生産系/ライン系エンジニア）

実際のプログラム実施内容

- 実地参加型体験セミナー：1日コース・全2回（電力会社 半導体営業関係者向け、CR入室含む実地実施、2回目は有料実施）
- 出前型1日初級セミナー：1日コース・1回（金融機関 半導体戦略部門向け、本社会議室で実施）
- 出前型2日間中級セミナー：2日コース・1回（大手半導体大規模工場の生産系/ライン系エンジニア向け、工場内教場にて実施）

成果サマリー

満足度

- 4.68（5段階評価：全受講生平均値）

受講生を輩出した企業の声

- 講師が受講生の机を回り、質疑・コミュニケーションをとれるのはよかった
- 遠隔型とは異なり、モノと人に触れることができるのは大きな特長
- 本形態の実習セミナーに可能性と将来性を感じている
- 次年度は募集対象層をより絞って有料での受講をお願いしたい

受講生の声

- 普段の製造現場（装置）では見れない部分について知ることができた
- 成膜やエッチングといった各工程間の関係性をよく理解できた
- 文系の自分でもチップ完成までの流れが分かりやすくイメージできた
- 完成ウエハーやチップ測定では実際にモノを見ることができた
- 今後は4日間版の現地参加型や設計版セミナーも受講してみたい

波及・今後

- 教育効果のより高い受講対象層にフォーカスし、内容もより企業側の要望を反映できるように、カスタマイズして有料で実施
- 修了者には上位の実参加型半導体製造/設計実習プログラムを推奨

半導体産業の拡大と成長のための全体俯瞰型実習教育の展開

プログラム詳細



**CMOS製造プロセス
遠隔型セミナー(初級)**
2025

半導体

**半導体デバイス製造プロセス
(特別日程)**



キオクシア株式会社様向け 特別日程 (令和8年1月29日-30日)
国立大学法人九州工業大学 マイクロ化総合技術センター

金融機関様向け 特別日程 (令和7年12月11日)
国立大学法人九州工業大学 マイクロ化総合技術センター

セミナーテキストとデジタルバッジ

2025年度 半導体デバイス製造プロセス(特別日程)時間割			
1日目		2日目	
出張型セミナー		出張型セミナー	
10:00	開会あいさつ	10	1日目のおさらい
	オリエンテーション		Module 3-1
	クリーンルーム入室の流れ プロセス室・フォト室の紹介		45. 酸化膜堆積
	休憩		Module 3-2
11:00	CMOSプロセス解説	11	47. 酸化膜エッチング (RIE)
	Module1		休憩
	34. ゲートフォトリソ		Module 3-3
	Q&A		50. HF洗浄 51. Al堆積
12:00		12	Q&A
13:00	Module 2-1	13	Module 4-1
	35. Poly-Siエッチング 36. フォトレジスト除去		52. 配線フォトリソ 53. Alエッチング 55. シンタリング
	Module 2-2		Module 4-2
14:00	41. pch S/Dインプラ	14	ダイシング・ワイヤーボンディング
	休憩		休憩
	Module 2-3		Module 4-3
	43. RCA洗浄		測定実習 ・n-ch単体MOSトランジスタ ・インバータ ・リングオシレータ
15:00	Module 2-4	15	Q&A
	44. S/D活性化熱処理		閉会あいさつ
	Q&A		
16:00		16	

時間割の例 (出張型2日間中級セミナー 2026.1/29-30)



遠隔試作と実地測定実習

産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業

プログラム概要

① 名称

- 産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業

② 目的

- 洋上風力産業を牽引する高度人材創出とためのエコシステム構築

③ 対象者層

- 長崎海洋アカデミー等での基盤となる講座を習得し、関連分野も含め何らかの実務経験をもつ会社員・社会人を中心層とするが、幅広い受講を期待。

④ 育成する人物像

- 次のそれぞれの分野を理解し、プロジェクトの中核的業務を担う人材
 - ①風車概念設計、風車翼設計、ウインドファーム性能向上技術
 - ②技術の標準化と適合性評価の概要、風況観測と流れの解析
 - ③風力開発と漁業との共生、環境モニタリング、地域活性化策の構築
 - ④海洋ロボットの設計・開発・運用及び海洋通信等の体系的技術
 - ⑤浮体・係留設計のための要素技術、浮体と風車の連成解析
 - ⑥海外企業とのジョイントプロジェクトにも対応できるマネジメント

申込方法

- 初年度は教育コンテンツの作成・改善に協力いただける企業から受講者を募集
- 将来的にはHPから申し込み

担当連絡先

- IACOW-Rプロジェクト事務局（長崎大学総合教育研究棟12階）
- Mail: recurrent_univ@ml.nagasaki-u.ac.jp TEL : 095-800-4130

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 長崎海洋アカデミーの社会人教育やIACOWの大学院教育と連携した6コース
 - ①風車工学・風車ブレードの理論と応用」（R9年度開講予定）
 - ②風力発電技術の標準化と適合性評価、風況解析」（R8年度開講予定）
 - ③漁業共生と地域活性化」（R7年度開講）
 - ④洋上風力と海洋ロボティクス」（R8年度開講予定）
 - ⑤浮体・係留の要素技術、風車と浮体の連成解析」（R9年度開講予定）
 - ⑥Offshore Wind Energy MBA イントロダクション（R9年度開講予定）
- 長崎大学が強みを持つ漁業共生、海洋ロボティクス、浮体・係留大学の研究成果や知見を研究者自ら社会人教育に展開
- 国際的に活躍する実務家講師（長崎大学連携研究員等）が講義
 - 長崎大学が有する国際的な人的ネットワークを駆使

② アピールポイント

- 受講者派遣企業と大学が一体となった教育のエコシステムの構築
 - 講座受講時だけでなく、受講をきっかけとした講師陣と受講企業技術者等の人的ネットワーク構築を通じた技術者コミュニティの形成。
 - IACOWとの連携による学生・大学院生と受講者派遣企業との交流
- 修了者にはデジタルバッジを発行予定
 - 社内外でのスキル可視化、キャリアアップ・異動等でのスキル証明

産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 事前セミナー：170名（WindExpo, 海洋教育フォーラムなど）
- 科目③授業：10名（教育内容構築に協力的な環境コンサル3社）

実際のプログラム実施内容

- 事前ニーズ検討：各科目の目標・企業成長仮説・受講者像（ペルソナ）を明確化、既存の他プログラムとのターゲットの違いを確認（マッピング）、企業ヒアリング（17社）を通じたニーズの探索・発掘
- 科目③『漁業共生・地域活性化』開講：90分×4回（座学，グループワーク，懇親会）、演習課題レポート提出

成果サマリー

満足度

- 70%（満足している）、30%（まあ満足している）

受講生を輩出した企業の声

- 洋上風力発電の導入支援にあたり、漁業者へのアプローチ方法、留意事項、前提知識等を大学の視点から体系的に学び、環境・漁業への影響評価手法を科学的に理解することを期待
- 自社のみでの情報収集には限界があり、大学の有識者から知見が得られ、受講した同業他社とも意見交換ができることが有意義
- 自社の事業の方向性と得たい知識の内容は一致しているが、大学での学びを人事評価に反映させる仕組みがないという制度上の課題も

受講生の声

- 若手が基本を習得するために必要な経験と時間を節約できる一方、ベテランが既往の固まった考えを正し、柔軟な発想をするためにも役立つ
- 座学の他にグループワークや懇親の機会があるのが対面授業の価値

波及・今後

- R8年度は2科目の講義を追加開講予定
- 基礎的知識が必要な人には長崎オーシャンアカデミー受講を推奨
- 将来的には修了生を対象とした交流ネットワーク・自主ゼミを開設

産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業 R7年度

プログラム詳細

プログラム全体

- ① **風車工学・風車ブレードの理論と応用** (R9年度開講)
 - 欧州の先進的技術動向を理解して国内外の知識ギャップを解消し、効率的な事業展開や新技術開発の基盤を習得する。
- ② **風力発電技術の標準化と適合性評価・風況解析** (R8年度開講)
 - 風況観測を含む技術標準化の概念と現行規格、適合性評価とその手順を理解し、世界標準化に関与できる技術者を育成する。
- ③ **漁業共生と地域活性化** (R7年度開講)
 - 漁村地域における対話と関係構築の進め方を理解し、漁業・地域振興の体制構築や漁業影響のモニタリング・評価手法を学ぶ。
- ④ **洋上風力と海洋ロボティクス** (R8年度開講)
 - 海洋ロボットの原理・原則を体系的に理解することにより、自社での製造・開発や効率的な運用に対応できる技術者を育成する。
- ⑤ **浮体・係留の要素技術、風車と浮体の連成解析** (R9年度開講)
 - 風車と浮体の連成解析、運転制御に対応できる人材を育成し、社内での解析技術の向上や社外委託の高度化に対応する。
- ⑥ **Offshore Wind Energy MBA Introduction** (R9年度開講)
 - 欧州における政策や事業の枠組みや動向を理解した上で、MBA取得を目指し得る洋上風力分野の経営人材を育成する。

R7年度開講科目：③ **漁業共生と地域活性化**

- 事前準備：意見交換会 (R7年10月10日, 東京)
 - 現場交渉に従事されている環境コンサルタント3社10名の担当者に講義のねらいや方法を説明して理解と協力を仰ぎ、具体的な進め方について協議した。
- 対面講義
 - 期日：R8年1月8～9日
 - 場所：長崎大学水産学部 (長崎県長崎市)
 - 講義内容：90分×4回 (別途交流会あり)
 - 1) 漁業と地域の実態理解
 - 2) 各種漁業の操業形態と洋上風力開発との関係
 - 3) 漁業への影響とモニタリング
 - 4) 合意形成・漁業振興・地域活性化の進め方
 - グループワーク
 - 空間的な関係性を考慮する。
 - 水産・地域振興に事業性評価の視点を導入する。
 - 影響調査の具体的な出口を検討する。
 - 演習課題
 - ある1つの促進区域について、促進区域と漁業権水域の関係、漁業と漁協の状況、利害関係者と法定協議会での検討項目を調べ、事業推進上の課題を抽出し、課題を克服する取り組みを提案する。

産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業 R7年度

産学連携洋上風力人材育成リカレント教育エコシステム構築事業

社会人向けコース (IACOW-R) 科目③漁業共生と地域活性化

受講案内

2026.1.7 長崎大学 清田雅史

I. 開講予定

【日時】1月8日(木)午後~1月9日(金)午前

【場所】長崎大学水産学部本館2階 セミ室

【時間割】

- 1) 1/8 (木) 13:30-15:00 漁業・漁業者・漁協・漁村地域の実態(清田)
- 2) 1/8 (木) 15:10-16:40 各種漁業の操業形態と洋上風力開発との関係(松下)
- 3) 1/9 (金) 09:00-10:30 漁業への影響、モニタリング、対応策(佐々木)
- 4) 1/9 (金) 10:40-12:10 合意形成、漁業振興、地域活性化の進め方(清田+松下・佐々木)

・講義室でのWifiの提供はございません。恐れ入りますが、必要な場合には受講者各位にてご用意ください。

・洋上風力社会人教育(IACOW-R)事務局で後日確認するため、参加者のご承認を得た上で講義動画を録画したいと考えております。事務局と講師以外の人が視聴することはありません。

II. 懇親会

【日時】1月8日(木)19:00~

【会場】「魚菜や 朝次郎 アミュプラザ長崎店」

<https://www.hotpepper.jp/strJ000622043/>

長崎駅併設のショッピングモール『アミュプラザ』5Fの居酒屋です。

【会費】5,500円



III. 講義資料等の共有

長崎大学のオンラインストレージに講義スライド等の資料を置いてあります。ご利用ください。

<https://nudrive.nagasaki-u.ac.jp/public/RoJugObKZcSNhAkxniH3CkdkmMi30Ote9OZWuBhIEREM>

PW: 20260108



IV. 受講生アンケート (http アドレスの修正あり)

授業内容について、下記アンケートにお答えください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdiHv0UXppvSP3WVJf8LfcfObCOZ3XwTHrD_vez1dBA_10JUA/viewform?usp=dialog

このアンケートに限らず、ご意見ご要望コメントなどございましたら、随時お気軽にお知らせください。アンケート内容についてのご意見も歓迎いたします。

V. 派遣企業アンケート

受講生を派遣いただいた企業の管理職の方から、本社会人教育プログラムに対する感想やご意見を頂戴するための企業アンケートを後日実施いたします。各社におかれまして、企業アンケートをお受けいただけるご担当者様のご氏名、ご連絡先をお教えてください。

以上

洋上風力エンジニア等育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 洋上風力エンジニア等育成プログラム

② 目的

- 政府が2040年までに国内で30～45GW（2018年実績の約10倍強）の導入目標を掲げ洋上風力発電案件形成が進んでいく中で、洋上風力発電事業における事業開発、エンジニアリング及び運用・保守等の領域で人材は大きく不足している実態を踏まえ、洋上風力発電産業におけるエンジニア等育成のためのプログラム開発と実施を目的とする。

③ 対象者層

- 洋上風力発電の主にエンジニアリング領域において新人(新卒・中途・社内異動者)を含む広い対象の人材

④ 育成する人物像

- 洋上風力発電の調査・計画、設計・製造、保守・保全分野におけるエンジニア等の人材

申込方法

- 受講システム（リンク↓）にて申込受付
<https://hrd.recow.kyushu-u.ac.jp/applications>

担当連絡先

- 九州大学洋上風力研究教育センター（RECOW）
E-mail：info@recow.kyushu-u.ac.jp
Tel：092-583-7864

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 学問体系に基づき目次事例紹介の豊富なカリキュラム
 - 海洋工学、風車工学、風工学、数値流体力学、大気力学、環境経済学、環境工学等の学問体系に基づきカリキュラムを設計
 - 洋上風力発電を推進している企業からの講師陣及び豊富な事例の紹介
- オンラインとオンデマンドのハイブリッド学習
 - 講義はオンライン講義を主体とし、本業で忙しい受講者のためにオンデマンド講義を準備
 - 独自の受講システムにより、快適な受講環境を提供

② アピールポイント

- 修了者には上位レベル又は新たな専門領域のプログラムの受講を薦めることにより受講生の継続的な学びを支援

洋上風力エンジニア等育成プログラム

プログラム内容

プログラム写真



【講義の様子】



【実習の様子】

受講者数

- 88名（2/2時点、3月実施講座の受講申込者含む）

実際のプログラム実施内容

- 講義：初級3講座

風力発電システム(初級) → 全3回／1日（講義90分×3回）

風況・海象(初級) → 全4回／1日（講義90分×2回、実習60分×2回）

浮体設計・支持構造物(初級)^{3月実施予定} → 全8回／2日間（講義90分×4回×2日）

成果サマリー

満足度

- 風力発電システム（初級）：67%
 - 風況・海象（初級）：60%
- 〔講座内容が「期待どおりだった」と回答した受講者の割合〕

受講生を輩出した企業の声

- 非常によくまとまっており、業界初心者でも参加したいと思える
- 導入教育として非常に良く、社内教育の第一歩として活用できる
- 初級講座として幅広く要点を押さえており、体系立てた理解につながる
- 社内メンバーにも受講を勧めたい

受講生の声

- 風車の基礎について学ぶことができた（風力発電システム）
- 洋上風力発電に対する実用レベルの考え方を聞くことができた（風力発電システム）
- 風力発電のリスク分析業務の精度向上に役立てられそうと思った（風況・海象）


波及・今後

- 受講生の声を反映した内容に本プログラムを改善し、来年度も継続実施・拡大予定
- 修了者には、中級の講座の受講を推奨


洋上風力エンジニア等育成プログラム

プログラム詳細


風力発電システム（初級）

実施状況・予定	2025年12月11日（木） 13:00～18:00 日本橋ライフサイエンスビルディング（東京都日本橋）での対面(及びオンライン)授業。
講師（主担当）	田中 元史 教授（九州大学 洋上風力研究教育センター社会実装推進部門）
講義数・受講料	全3回／1日集中講座（講義90分×3回）・19,000円
内容	洋上風力発電システムの機械、電気の基本と、維持管理手法を概説する。 講座内容の詳細はこちらをご確認ください ⇒ 

浮体設計・支持構造物（初級）

実施状況・予定	2026年3月11日（水）10:30～18:00 2026年3月12日（木） 9:30～17:15
講師（主担当）	宇都宮 智昭 教授（九州大学 工学研究院 海洋システム工学部門 海洋システム設計学 兼 洋上風力研究教育センター支持構造物・洋上送電研究部門長）
講義数・受講料	全8回／2日集中講座（講義90分×4回×2日）・56,000円を予定
内容	洋上風力発電設備支持構造物（特に浮体式）の概要と特徴、その設計における留意点等について概説する。 講座内容の詳細はこちらをご確認ください ⇒ 

風況・海象（初級）

実施状況・予定	2025年12月22日（月） 10:30～16:50（休憩：12:00～13:00） 原則、九州大学筑紫キャンパス（福岡県春日市）での対面講義、実習。（一部オンライン対応）
講師（主担当）	内田 孝紀 教授（九州大学応用力学研究所 再生可能流体エネルギー研究センター 兼 洋上風力研究教育センターマルチスケール洋上風況研究部門長）
講義数・受講料	全4回／1日集中講座（講義90分×2回、実習60分×2回）・23,000円
内容	日本の気象・海象に対応した野外観測手法、数値シミュレーション手法、室内実験手法の基本を身につける。 講座内容の詳細はこちらをご確認ください ⇒ 

Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想 ～REACH × バイオDX × ビジネスデザイン～

プログラム概要

① 名称

- Industry on Campus型リカレント教育プログラム

② 目的

- バイオ/ライフサイエンス/ビジネスデザイン分野を牽引する高度人材の育成

③ 対象者層

- バイオDX(機械学習、ビッグデータ解析、バイオインフォマティクス等)や、医薬・遺伝子治療薬、ライフサイエンス領域等に関係する企業の各部門等

④ 育成する人物像

- バイオテクノロジーとデータサイエンスを融合し、DX導入による組織論や経営資源の最大化を視野にDXの方向性を企画する力を育成。
- 産学共創セミナーやライフサイエンスセミナー、ビジネスデザイン等の講義を通じて、企業の成長に直結する人材を育成。

申込方法

- 下記サイトから申し込み
- <https://www.cfi.eng.osaka-u.ac.jp/iocree/biodata>

担当連絡先

- 大阪大学 大学院工学研究科附属 フューチャーイノベーションセンター
Mail : contact-iocre@cfi.eng.osaka-u.ac.jp

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

● 「バイオデータビジネスデザイン論」開講

機械学習、ビッグデータ解析、創薬AI、医療AI、ロボティクス、バイオインフォマティクス事業等の各分野の第一人者を講師として招き、座学形式の講義に加え、ワークショップ形式で理解を深め、DX技術の実践力を培う。オンラインと対面のハイブリッド学習に対応。

● 「産学共創セミナー」「ライフサイエンスセミナー」の開催

大阪大学島津分析イノベーション協働研究所主催の産学共創セミナー、パナソニック基盤協働研究所主催のライフサイエンスセミナーを開催。医薬・遺伝子治療・ライフサイエンス領域等における大阪大学の技術シーズを紹介。アイデア着想・研究着手に至るまでの「対話」の機会を提供。

● 「ビジネスデザイン実践」の講義・演習

事業のベースとなる思考力・企画力等に資するビジネスデザイン分野の講義・演習を提供。

B アピールポイント


● デジタルバッジの発行やさらなる学修へ

プログラム受講者にはデジタルバッジを発行予定。また、博士学位取得など、さらなる学修を求める場合にはREACHプロジェクトの活用や工学研究科産学官共創コース入学による継続的な学びを支援。


Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想 ～REACH × バイオDX × ビジネスデザイン～

プログラム内容


プログラム写真



バイオデータビジネスデザイン論 (オンデマンド教材)



対面形式講義



ライフサイエンスセミナー

受講者数

- 749名 (製造業、情報通信業、医療・福祉等に属する企業から大学に派遣された技術系研究者、出資元企業の社員、大学院生を含む)

実際のプログラム実施内容

- バイオデータビジネスデザイン論(大学院生対象)：90分×15回 対面形式
- バイオデータビジネスデザイン論(社会人向け)：動画コンテンツ 55本 オンデマンド形式
- ライフサイエンスセミナー：60分×5回 ハイブリッド形式
- ビジネスデザイン実践：180分×6回 オンライン/対面形式

成果サマリー

満足度

- 95%が5段階評価の4以上 (ライフサイエンスセミナーに関して)
- 満足度4.4/5.0 (ビジネスデザイン実践に関して)

受講生を輩出した企業の声

- AIは進化が早く、自社内で学修プログラムを確立するには時間を要する。
- 本質や大局を見抜いた第一人者から知恵を授かり、最先端の知識を大学で学ぶことが効果的。

受講生の声

- ライフサイエンスセミナーでは、セミナー後に大学側研究者と企業側との個別面談を実施。「新たな研究や事業に繋がりそうである」との回答が50%に及ぶセミナーも有り。
- ビジネスデザイン実践では、ニーズのトレードオフの考え方等における新たな視点の獲得や、適切な 이슈の選定の重要性を認識した、などの声有り。

波及・今後

- 来年度も既存プログラムを継続実施予定
- 大阪大学の強みである『Industry on Campus』を軸に、協働研究所・共同研究講座および出資元企業の協力の下、バイオDXのみならず分野を超え共創可能な教育コンテンツ、コミュニティの促進を目指す。

Industry on Campus型リカレント教育エコシステム構想 ～REACH × バイオDX × ビジネスデザイン～

プログラム詳細

	R7.4	R7.7	R7.10	R8.1	R8.3
講義・実習	バイオデータビジネスデザイン論 (大学院生対象)		バイオデータビジネスデザイン論 (社会人対象)		
	ビジネスデザイン実践 (対面)		ビジネスデザイン実践 (オンライン)		
セミナー シンポジウム	ライフサイエンスセミナー				総括シンポジウム
			REACHプロジェクト講演会		
調査			海外調査 (米国・欧州)		
			リスクリング実態調査 (産業界)		
コンテンツ作成			バイオデータビジネスデザイン論 動画撮影・編集・アップロード		ライフサイエンスセミナー 動画撮影・編集・アップロード
アンケート インタビュー			バイオデータビジネスデザイン論 受講者アンケート・インタビュー		

ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテックマスター育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテックマスター育成プログラム

② 目的

- エコシステムプラットフォーム構築によって自分らしく最期まで自律・自立できることを支援するケアテクノロジーの開発と社会実装を推進できる人材、ケアテックマスターを育成し、ヘルスケア産業を含めたケアテクノロジー産業全体の成長を実現する

③ 対象者層

- 医療施設管理者 看護師長クラス以上 ・ 介護施設管理者 副施設長クラス以上
- ケアテクノロジー開発企業 主任クラス以上および開発経験を持つ熱意のある若手
- ケアテクノロジー販売企業 主任クラス以上

④ 育成する人物像

- 患者・利用者中心のケアの観点から未来社会を描くことのできる人材
- 専門職連携実践に基づきケアテクノロジーの開発に向けてコ・デザインの展開に参画できる人材
- 実装戦略フレームワークの知識を持ち、ケアテクノロジーの実装戦略の立案と展開に主体的に参画できる人材

申込方法

以下のサイトからの申し込み

- ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテックマスター育成プログラム
- 専門職連携教育研究センター [Inter Professional Education Research Center](#)

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

- エコシステム構築に向けてユーザーと企業人がともに学ぶ**
ケアの観点から未来社会を描き、ケアテクノロジーのユーザー（医療介護従事者）と開発・販売企業人にとって必要な以下の5要素
①共通言語 ②対話とコンフリクトの解決
③専門職連携実践 ④コ・デザイン
⑤実装戦略
とともに学ぶことで、ユーザーと企業人がつながり、エコシステムプラットフォームを構築できる
- オンラインプラットフォームを活用したリカレント教育プログラム**
医療介護従事者が受講者に含まれることから、所属施設のCOVID-19感染症のクラスター発生時や悪天候等でも、オンラインによる同時双方向での開催へ変更することを可能とする

B アピールポイント

- 修了者にはデジタルバッジ「ケアテックマスター」を発行**
- 全てのプログラム履修修了者へデジタルバッジを発行
- 保有スキルの可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能



ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテックマスター育成プログラム

プログラムの目的

- 1 ケアの基本知識と最先端のケアを学び、ケアの観点から未来社会を描ける人材を育成する
- 2 ケアテクノロジーのユーザーである医療介護従事者と開発・販売を担う企業人が、共通言語、対話とコンフリクトの解決、専門職連携実践、コ・デザイン、実装戦略フレームワーク等の最新知識とともに学ぶことを通して、**医療介護現場で利用され続けるケアテクノロジーの開発と実装を推進できる人材「ケアテックマスター」を育成**する
- 3 ユーザーと企業人が参加するケアテクノロジーのコ・デザインと実装戦略をシミュレーションするワークショップによって、所属組織の課題と解決策を明らかにできる人材を育成する
- 4 ケアテクノロジーに関する対話とネットワークの基盤となるエコシステムプラットフォームを構築する



図 教育プログラムの概要

ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム

プログラム内容

プログラム写真



基盤科目2 グループワークの風景
 テーマ：“聖なる牛”を発見し倒すために
 “聖なる牛”とは、慣習や伝統に基づいた実践

受講者数

- 延べ371名、実数187名（医療介護施設管理者、企業管理者等）
 （基盤科目1:187名 基盤科目2:115名 ワークショップ:69名）

実際のプログラム実施内容

- 講義：基盤科目1全15回（全オンデマンド）
 基盤科目2全15回（12回オンデマンド、3回対面グループワーク）
 ※ 各回オンデマンドは動画コンテンツ15分×3編、確認クイズ、ミニレポート
- ワークショップ：全1回
 人間の尊厳を尊重するためのケアテクノロジーの開発と実装

成果サマリー

満足度

- プログラム全体：95.6%
 （基盤科目1:95.6% 基盤科目2:96.1% ワークショップ:98.5%）

受講生を輩出した企業の声

- 自社製品が現場で定着しない理由を「現場のリテラシー不足」のせいではなく、「現場の文脈（コンテキスト）への理解不足」と「制度とのミスマッチ」であったと大きな発見があった
- 使わない理由が機能ではなく、運用や文化にあることを踏まえ、実装まで設計する必要がある

受講生の声

- 作り始める前から現場観察や対話を通して、必要な機能・運用を現場と共に早期に決めたい
- 開発者の倫理観、利用者への尊厳に対する意識の差によって、機器のアラーム設定に違いが出ることを浮き彫りにしてわかりやすかった
- 企業側は「技術の押し売り」の限界を理解し、現場側は「受動的な消費者」的な意識の改善になった

波及・今後

- 来年度も本プログラムを洗練し実施予定
- 修了者同士の継続的な情報交換・学びの場を検討中

ケアテクノロジーの開発と実装を実現するケアテクマスター育成プログラム

プログラム詳細

開催時期・回数	科目名/学習目標	時間
2025年10月～11月 オンデマンド15回 無料	基盤科目1：ケアが目指す未来社会 1 未来社会を描くための基本知識と最先端ケアを理解できる。 2 ケアの観点から未来社会を描ける。	全15回/ 15時間
2025年11月～12月 オンデマンド12回 現地開催3回 無料	基盤科目2：ケアテクノロジーのコ・デザインと実装戦略 1 ユーザーと企業人との対話を目指して、ケアテクノロジーのニーズ、シーズを理解できる。 2 ユーザーと企業人の相互理解と共通言語の獲得によって対話とコンフリクトの解決の重要性を理解できる。 3 専門職連携実践の基本知識を学び、エコシステム構築に向けたユーザーと企業人とのコ・デザインの必要性を理解できる。 4 エコシステム構築に向けたケアテクノロジーの実装戦略枠組みの必要性を理解できる。	全15回/ 16.5時間
2026年1月 現地開催 無料	ワークショップ：ユーザーと企業人がともに考えるケアテクノロジーの開発・実装戦略 ユーザーである医療介護従事者と開発・販売企業の専門職連携実践によって、ケアテクノロジーの開発と実装に関する戦略を立案し、今後、自身と所属組織が取り組むべき課題と解決策を明確にできる。	全1回/ 3時間
計		34.5時間

CMO Program

プログラム概要

① 名称

- CMO Program – 企業経営を牽引するマーケティングを学ぶ総合講座

② 目的

- 企業の最高マーケティング責任者（CMO）やマーケティング部門の責任者を対象に、「企業経営を推進するマーケティング」の理論・実践知を提供し、企業の成長と収益性向上に資するマーケティングの実践を指揮する人材を養成すること

③ 対象者層

- 企業のCMOまたは、マーケティング本部長、マーケティング部長など、マーケティング部門の責任者およびそれらの候補者であること

④ 育成する人物像

- マーケティングの理念、理論、実践知を深く理解するとともに、優れたリーダーシップを有し、企業のマーケティングを牽引することができる人材
- 効果的なマーケティングを実行することで、当該企業の収益性向上と成長に貢献できる人材

申込方法

- 下記サイトから申し込み
<https://wasedaneo.jp/>

担当連絡先

- 早稲田大学教務部コンティニューイング・エデュケーション推進室
Mail : cmo_program@list.waseda.jp Tel : 03-6262-7534

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

• 著名な講師陣

- 日本を代表する企業でマーケティングを指揮・実践している方々、当該テーマに関する学術界/産業界の第一人者の方々など、著名な講師陣から学びます。

• 総合的な学び

- 経営者としてのCMOを養成するために必要となる事項を体系的かつ包括的に学びます。基礎的なテーマではなく、企業経営とマーケティングとの関係、戦略立案、収益モデル、顧客理解、リーダーシップと思考法、市場環境の変化など企業経営を牽引するために必要な知識・スキルを総合的に学びます。

• 学修成果報告会

- プログラム修了後、受講者は自社で学修成果報告会を実施し、学びを社内に共有することで、他のマーケティングスタッフの学習意欲を高め、組織全体のマーケティング力向上へとつなげる仕組みが特徴です。

② アピールポイント

• 修了者にはデジタルバッジを発行

- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

CMO Program

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 18名

実際のプログラム実施内容

- 講義15回（企業経営とマーケティング、マーケティング戦略、マーケティング組織、リーダーシップ等に関する講義）
- うち2回は1泊2日の合宿形式（Jon Iwata氏によるCorporate Brand Stewardship、Thomas Barta氏によるThe Strategic Role of the CMOの特別講義）
- 最終演習課題（自社のマーケティング課題の整理と解決に向けた計画策定）

成果サマリー

満足度

- 100%（5段階評価の上位2つ「満足」「やや満足」と回答した割合）

受講生の声

- CMOの役割やマーケティングの意義、ブランド考察、組織活性化、財務目線のマーケティングなど、多角的なテーマについて、それぞれの分野のエキスパートから直接講義を受けることができ、大変満足しています。
- 講師陣が非常に充実しており、毎回楽しく学んでいます。また、マーケティング部長、もしくはそれに準ずる役職者同士で、同じような悩みを共有でき、参加者同士から刺激を受けられる数少ない貴重な機会だと感じています。
- どの講義も新鮮で非常に有益です。学びの共有の場では、他の受講生の感じ方や捉え方を知ることができ、大変参考になっています。
- 毎回の講義内容が非常に濃く、多くの刺激を受けています。学術教員が作成した事後教材も大変有意義で、理解を深めるうえで役立っています。

波及・今後

- プログラム修了後、受講生は自社で学修成果報告会を実施し、学びを社内に共有することで、他のマーケティングスタッフの学習意欲を高め、組織全体のマーケティング力向上へ波及

CMO Program

プログラム詳細

2025年度秋期カリキュラム・スケジュール

日程	曜日	時間	場所	科目名	担当講師	日程	曜日	時間	場所	科目名	担当講師
2025/10/7	火	13:30 - 15:30	日本橋	初回ガイダンス	守口 剛	2026/1/20	火	13:30 - 15:30	日本橋	ビジネスモデル-収益向上の仕組み-	井上 達彦
		15:45 - 17:45	日本橋	経営・マーケティングの戦略課題とAIの影響	西口 一希			15:45 - 17:45	日本橋	先端テクノロジーとAIが拓く新しいマーケティング	馬淵 邦美
2025/10/21	火	13:30 - 15:30	日本橋	企業の成長と収益向上のための戦略	笹本 裕	2026/2/3	火	13:30 - 15:30	日本橋	リーダーシップと意思決定	内田 和成
		15:45 - 17:45	日本橋	競争戦略の基盤論理	楠木 建			15:45 - 17:45	日本橋	顧客戦略	小野 譲司
2025/11/4	火	13:30 - 15:30	日本橋	CMOの役割：マーケティング実行力の向上	足立 光	2026/2/17	火	13:30 - 15:30	日本橋	マーケティング組織と戦略	守口 剛
		15:45 - 17:45	日本橋	CMOの役割：企業変革をドライブするマーケティング	山口 有希子			15:45 - 17:45	日本橋	顧客体験価値とブランド価値の向上	森井 久恵
2025/11/21	金	終日	晴海 (合宿)	The Strategic Role of the CMO	Thomas Barta	2026/3/3	火	13:30 - 17:45	日本橋	受講生演習課題発表	守口 剛
2025/11/22	土	終日	晴海 (合宿)	Corporate Brand Stewardship	Jon Iwata						
2025/12/16	火	13:30 - 15:30	日本橋	価値創造の経営戦略	西山 茂						
		15:45 - 17:45	日本橋	企業変革の方法	後藤 秀夫						

社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成－ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化－

プログラム概要

① 名称

- 社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成
－ ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化 －

② 目的

- 企業の成長に資するDXプロフェッショナル人材の育成および輩出

③ 対象者層

- 「建設・インフラ分野※」関連従事者で、デジタルリテラシー、BI、AIなどの知識はあるが、抱えている課題に対してどのように活用するか具体的につかめていない方（※地域の現況、ニーズを踏まえ対象分野を絞った学習コンテンツであるが、他分野の方でも受講可）

④ 育成する人物像

- デジタルに関する知識を活用し、最先端のAIなどを利用した課題解決により組織の各部門をリードできる人材
- 組織や業界全体のDX化と同時に産業成長に貢献する人材

申込方法


- 受講申込に先立ち、下記「担当連絡先」に記載のメールアドレスへお問合せください

担当連絡先



- 北海道大学 データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）
Mail : drep_kenshu*dred.hokudai.ac.jp（*を@に置き換えてください）

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

- DXによる課題解決力を養う「ケーススタディ型学習」をメインとし、データの収集・管理、分析から戦略、企業倫理についても学ぶカリキュラム
 - 実際の「建設・インフラ分野」での課題解決におけるDX活用の好事例を学び、最先端のAIを活用しDXがどのように行われているかについて読み解く力を養うことで課題解決のイメージを喚起
 - 「建設・インフラ分野」におけるデジタルデータの収集・管理について適切な方法や、データを活用した分析から適切なメンテナンスの戦略を立案するためのスキル、さらにビジネススキルも獲得可能
- オンライン・オンデマンド形式の「講義」とケーススタディ型学習を含む「セミナー」を組み合わせた学び 
 - 基本的に講義はオンライン・オンデマンド形式とし、広大な北海道においても好きな場所・時間で学習ができ、受講生の負担を軽減
 - セミナー（報告会）を開催し、プレゼンや受講生同士でのディスカッションなどにより、履修の上で必要かつ重要な内容を的確に把握

B アピールポイント

- ツールを利用するだけの人材からデジタルを活かす人材へ 
 - 単にツールを利用するだけの人材からデジタルを活かすDXプロフェッショナル人材への出発点を明確にしたカリキュラム設計
- プログラムの修了者にはデジタルバッジを発行予定 

社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成ー ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化ー

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 27名（「建設・インフラ分野」を中心とした参画企業受講者）
（※参画企業において下位レベルのプログラム受講生数を含めると約420名超）
(2026/2時点)

実際のプログラム実施内容

- DX活用力養成カリキュラム【ケーススタディ型学習】
講義 1 - 3、演習（個人またはグループ、レポート）、報告会
 - データアナリスト・データアキュムレータ養成カリキュラム
共通講義 1 - 4、データアナリスト講義 1 - 2（演習含）、データアキュムレータ講義 1 - 2（演習含）
 - ビジネススキル養成カリキュラム
企業倫理 1 - 3
- （※全て基本はオンライン・オンデマンド形式 報告会（1回）のみ対面実施）

成果サマリ

満足度（2026/1/21現在）

- 97%（「大変満足」「満足」など肯定的回答をした受講者の割合）

受講生を輩出した企業の声

※受講後のインタビューより



- 各部署の課題抽出をさらに発展させるために受講させたが、新しい知見を得られた事例が見受けられた
- 受講を通して、個々の受講生の向上心というのも見ることができ、より同じ方向を向くことができ、チーム力の向上につながった

受講生の声

※受講後のアンケートより



- 業務課題を整理し解決に向けて動く場合、課題整理した人だけがわかり周りはわからないというケースがあるが、このように体系的に整理することで共通認識を持つことが出来た
- 技術提案業務の効率化や承認フローの改善に役立つ
- 会社の課題等をあらためて考え、またその解決方法について考える非常に貴重な機会になった

波及・今後

- 来年度も本プログラムを継続実施、および対象分野を絞らずに「建設・インフラ分野」以外にも拡大予定
- さらに本プログラム受講の成果を活かすため、実際の課題解決へつながるPBL型学習プログラムの受講を推奨

社会変革を先導するDXプロフェッショナル人材育成－ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化－

プログラム詳細

カリキュラム概要

DX活用力養成カリキュラム【ケーススタディ型学習】

項目	研修内容	学習目標
講義1	企業における業務効率改善提案の進め方(1)	ケーススタディ型学習に関する基本認識・知識、取り組み意義や目的を理解する (企業活動における業務効率改善提案の在り方を理解する) <ul style="list-style-type: none"> 問題と課題 (問題と課題の違い・ビジネスシーンでの注意点・取組の注意点・結果、原因、理由、背景(変化動向)の関係) 問題解決のフレームワーク (ロジックツリー・5W1H・SWOT分析・PDCAサイクル・As-Is/To-Be分析・マトリックス図・KJ法・4P分析) 問題解決能力トレーニング (問題の認識と定義・原因の分析・解決策の考案・解決策の実行・結果の評価) ケーススタディについて
講義2	企業における業務効率改善提案の進め方(2)	具体例(複数の業界事例(建設・インフラ事例含む))を通してケーススタディを理解する
講義3	業務効率化に資するAI	業務効率化に資するAIについて学ぶ
演習	業務効率化ケーススタディ	建設・インフラ分野における事例を用いてケーススタディを行う

項目	研修内容	学修目標
企業倫理	コンプライアンスの概要と意義	コンプライアンスの概要と意義について理解し、説明できるようになる
	企業の社会的責任	企業の社会的責任やその変容について理解し、説明できるようになる
	コンプライアンスとの向き合い方	コンプライアンスとの向き合い方や研究者・技術者にとっての取り組み視点について理解し、説明できるようになる

データアナリスト・データアキュムレータ養成カリキュラム

項目	研修内容	学修目標
共通	インフラ分野のDXとEBPM推進他	インフラ分野のDXをテーマに、AIや5Gの活用から、EBPM(根拠に基づく効果的な意思決定)実践を見据えたデータのデジタル化・可視化まで、社会基盤の革新と意思決定の高度化の基礎を理解し、説明できるようになる
基礎	地域におけるデータ駆動型の道路インフラ維持管理他	人口減少と財政制約に直面する地方自治体に不可欠な「データ駆動型」の橋梁維持管理手法を理解し、説明できるようになる
演習	橋梁データ整理・健全度評価・予測と補修費の推定	自治体のサンプルデータを用いて、地域のインフラ資産を客観的に把握・分析スキル及び健全度評価や維持管理費の推定を実践的に学ぶ
応用	BIM/CIMを活用したインフラマネジメント	汎用土木系ソフトウェアを用いて、2D橋梁図面から橋梁BIM/CIMモデルの開発をハンズオン形式で学ぶ
基礎	AI搭載タブレットによるインフラマネジメント	人口減少と財政制約に直面する地方自治体に不可欠な「AIを活用したインフラマネジメント」に基づく点検・診断手法を理解し、説明できるようになる
演習	AI搭載タブレットによるインフラ点検・診断	AIを搭載したタブレット点検用のアプリケーションを用いて、橋梁点検・診断の実践的に学ぶ
応用	3D点群データを活用したインフラ点検・診断	三次元点群データを活用したインフラマネジメントの基礎概念から実務への応用までを体系的に理解し、点群処理ソフトを用いて、基本操作からCAD連携や簡易3Dモデル化までをハンズオン形式で学ぶ

実施スケジュール

- 講義：オンライン・オンデマンド形式
- セミナー(報告会)の開催概要(日程、形式)については、各参画機関と適宜調整の上、決定

スマートエスイーAIトランスフォーメーション：生成AI産学エコシステム

プログラム概要

① 名称

- スマートエスイーAIトランスフォーメーション：生成AI産学エコシステム

② 目的

- 生成AIを学ぶ新規の体系的な学習カリキュラムの開発と実施
- 生成AI技術を活用した学修体験の変革

③ 対象者層

- IoT・AI・ビッグデータの各技術を活用して価値創造を主導したいと考えるエンジニアや専門家など
- 組織やビジネスのDX推進を主導したいと考えるマネージャーや経営者、企画者など

④ 育成する人物像

- 通信・物理、情報処理、アプリケーション、ビジネスの4領域を統合するフルスタック人材
- デジタル領域全体とDXの本質を理解し、新しいビジネスや業務体系のDX推進を主導できる人材

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- <https://www.waseda.jp/inst/smartse/>

担当連絡先

- 早稲田大学 スマートエスイー事務局
- Mail : smartse@list.waseda.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 領域を超えた総合的アプローチ**
 - 通信・物理、情報処理、アプリケーション、ビジネスの各領域を有機的に繋ぐ総合実践を通じて、新たな価値創造を推進するフルスタックかつビジネス×マインド・技術を扱う人材を育成
- 生成AI最新技術を学べるカリキュラム**
 - 生成AI科目を4領域に体系的・網羅的に設置。さらに、生成AIを用いた新しい学修体験を提供
- 理論と実践による即戦力の育成**
 - 大学教員による理論の講義と実務家教員による演習で構成
 - 修了制作やDXゼミを発展させ、共同研究や特許取得、起業へ繋げることが可能
- 学修の評価による質の担保**
 - 全科目で提出課題、教員による個別にフィードバックを実施
 - 修了制作・DXゼミは審査を行い、合格者に修了を認定する

② アピールポイント

- 学校教育法に基づいた、早稲田大学の履修証明プログラム
- 職業実践力育成プログラム認定、教育訓練給付制度の対象講座
- 修了者にオープンバッジを発行

スマートエスイーAIトランスフォーメーション：生成AI産学エコシステム

生成AI技術の急速な進化とその社会への影響拡大に対応するため、そして学修体験を変革する次世代の教育モデルを確立するために、以下の3つの施策を実行する。これにより、IoT/AI・DX分野におけるフルスタック人材の育成と持続可能なプログラム運営体制の強化をさらに推進する。

施策1

生成AI技術に対応した教育カリキュラムの変革

- 既存コース体系を維持しつつ、生成AI技術を体系的に学べるカリキュラムへ進化させる
- 生成AIを活用した実践的スキルを習得し、PBLを通じて実課題解決に取り組む
- IoT/AIコースとDXコースのシナジーを高め、技術とビジネスの融合を促進する

施策2

生成AIによる教育手法、学修体験の変革と運営の効率化

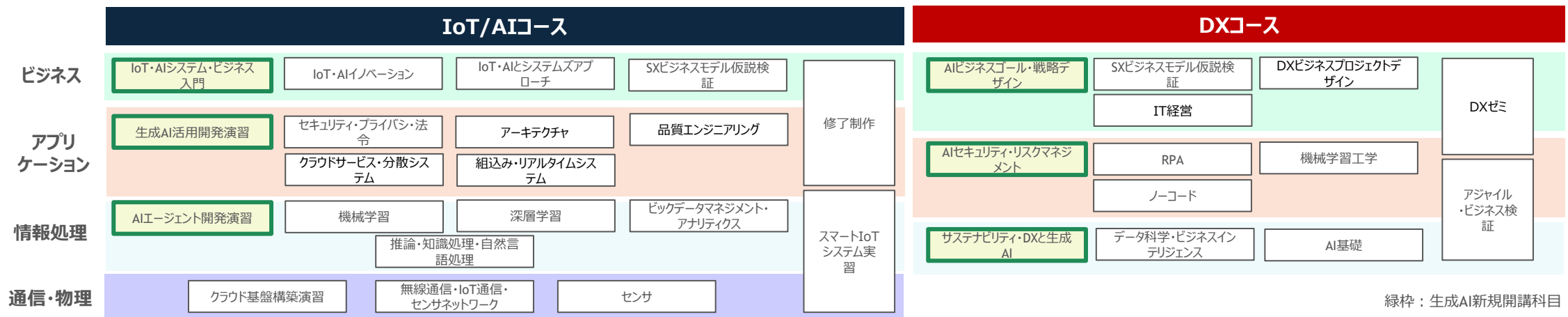
- 生成AIを活用した教育手法を導入し、学修体験を変革する
- AIによる講義サポートツールを導入し、受講生の学修効果を高め、講師を支援する
- 運営プロセスの自動化を進め、事務作業を効率化する

施策3

産学連携による持続可能なプログラム体制の構築

- 既存の産学連携体制を基盤とし、企業との協力をさらに強化する
- 企業からの受講生派遣を拡充し、受講生の継続的な確保を目指す
- 補助事業終了後も安定運営が可能な持続的な産学エコシステムを構築する

カリキュラム体系





スマートエスイーAIトランスフォーメーション：生成AI産学エコシステム

プログラム内容

成果サマリー

プログラム写真



受講者数

- 正規受講（スマートエスイーDXコース）：32名（修了30名）
- オープン受講（無料公開講座）：延べ登録者数 約4,000名
- 普及啓発（関連セミナー・イベント）：延べ参加者数 約1,000名

実際のプログラム実施内容

- **スマートエスイーDXコース（全13科目）**
DX・生成AI関連の講義を対面・オンラインで実施（1科目6-12時間）
- **gaccoスマートエスイー講座（全5講座）**
日本最大級の無料オンライン学習サービス「gacco」にて、オンデマンド配信講座を提供
- **セミナー、交流シンポジウム等（計7回）**
有識者によるパネルディスカッションや最新技術の知見共有を実施

満足度

- 受講生の92%がプログラム全体について「満足」以上の回答
- 受講生全員が修得したスキルを今後の実務に「活用できる」と回答

受講生を輩出した企業の声

- 今後どのような領域でも生成AI技術の活用は必須となるため、その知識やスキルの獲得につながるカリキュラムに魅力を感じている。
- 受講している社員より「とても貴重で有意義な成長機会を頂いている」との声が届いている。
- 業務や組織の課題解決に貢献する成果を期待し、しっかり持ち帰っているため、期待どおり。

受講生の声

- 戦略・構造・組織変革まで体系的に学べる貴重な機会であり、人生の転換点となった。
- ビジネスモデルの策定手法など「すぐに実務に転用できる内容ばかりで非常に有用だった。

波及・今後

- 来年度も本プログラムを継続・拡大実施。最新のDX技術に合わせ教材を適時アップデートする。
- 修了生・講師・企業間の交流を軸に、共同研究や連携プロジェクトの創出を促進
- 他地域・企業への横展開を図り、産学官ネットワークによる社会のDXを加速



スマートエスイーAITランスフォーメーション：生成AI産学エコシステム

プログラム詳細

正規受講 スマートエスイーDXコース

開講期間：2025年10月4日～2026年3月7日

領域	科目名	履修時間
総合実践領域	DXゼミ	6時間
	アジャイル・ビジネス検証	6時間
ビジネス領域	AIビジネスゴール・戦略デザイン※	12時間
	DXビジネスプロジェクトデザイン	12時間
	SXビジネスモデル仮説検証	12時間
	デジタル経営	6時間
アプリケーション領域	AIセキュリティ・リスクマネジメント※	6時間
	RPA	6時間
	ノーコード	6時間
	機械学習工学	6時間
情報処理領域	データ科学・ビジネスインテリジェンス	12時間
	AI基礎	6時間
	サステナビリティ・DXと生成AI※	12時間

早稲田大学の履修証明プログラムとして実施。修了時に「履修証明書」と「デジタルバッジ」を発行

無料公開講座 gaccoスマートエスイー講座

※生成AI関連新設・リニューアル科目

1講座60分×4回の構成によるオンデマンド配信

講座名	開講期間
DXとAI活用	2025年7月28日～2026年3月4日
IoT・AIシステム・ビジネス入門※	2025年11月6日～2026年3月4日
生成AIを活用したソフトウェア開発入門※	2025年11月6日～2026年3月4日
AIエージェント開発入門※	2025年12月4日～2026年3月4日
サステナビリティ・DXと生成AI※	2025年12月4日～2026年3月4日



関連セミナー・イベント（一部抜粋）

- スマートエスイーDX交流フォーラム・DXコース募集説明会（2025年7月19日）
- スマートエスイーセミナー「生成AIによるソフトウェア開発」（2025年11月10日）
- 国立情報学研究所「教育機関DXシンポ」講演（2026年1月21日）
「生成AIによる社会人リカレント教育の学修変革の試み：スマートエスイーを例に」
- DXコース修了記念シンポジウム（2026年3月7日予定）
- 電子情報通信学会総合大会 講演（2026年3月11日予定）
「社会人リカレント教育『スマートエスイー』の生成AI変革」



生成AIによる教育手法・学修体験の変革



生成AIを活用した講義サポートツールを開発・導入

リアルタイム講義質問対応

グループ討論支援

ライブアンケート

理解の深化
主体的な参加

【GXプロ】北海道大学：グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築

プログラム概要

① 名称

- グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築
-GX未来社会デザイン実践プログラム（基礎編・応用編）-

② 目的

- GXを環境と経済の好循環を生み出す構造転換の起点と捉え、自然との共生を重視する視点から、北海道大学の多様な研究資源と広大なフィールドを活用し、地域循環、自然資本、脱炭素といった課題に実践的に取り組む人材の育成を目的とする。

③ 対象者層

- GX推進に関心を持ち、実務経験・社会課題解決への意欲を有する社会人

④ 育成する人物像

- 部門横断で、政策・技術・ファイナンス・自然資本の観点を統合し、社内外を巻き込みながら・社会実装ができるリーダー

申込方法

- Hpに記載の専用申込フォームより

担当連絡先

- 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部
Reh-office(at)grad.hokudai.ac.jp (at)を@に置き換えてください

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

ステップアップ型プログラム構成

基礎編から応用編へと段階的に学びを深め、政策・技術・事業の三位一体でGX人材を育成。

- 基礎編（R7年10月～1月／全8回・平日夜間：ハイブリッド開催・オンデマンド配信あり）**
 - GX政策・技術動向、企業事例を通じたGXの体系的理解、技術動向など多様なテーマをカバー
- 応用編（R8年12月／2泊3日集中合宿・プロジェクト演習）**
 - 基礎編で習得した知識を基に、フィールドワークをもとに企業ビジョンを考える実践型プログラム

② アピールポイント

- 専門家の知と出会う**
GX分野の研究者・専門家から、技術・社会課題の本質や新たな視点を得る。
- 現場課題を起点に構想**
自身の業務や地域の課題から出発し、実現可能なGXのアイデアを構想。
- フィールド体験から企業ビジョンを構想**
フィールド実践・グループワークを通じて、GXを起点とする自社のビジョンを構想。
- 修了証の発行**
プログラム修了者には修了証を発行し、履修実績を可視化

GX未来社会デザイン実践プログラム（基礎編）

プログラム内容

プログラム写真

- 受講生専用のLMSによるオンデマンド配信

「生物の多様性(biodiversity)」とは、
すべての生物(陸上生態系、海洋その他の水界生態系、
これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなを問わない。)の間の変異性をいうものとし、

- 種内の多様性、
- 種間の多様性及び
- 生態系の多様性

を含む。
(生物多様性条約(1992年採択、1993年発効)第二条)

※いきもののにぎわい

「生物多様性Biodiversity」という言葉は新しい。
1987年にハーバード大学のエドワード・オズボーン・ウィルソン博士が使ったのが初めと言われていた。

受講者数

- 115名 (GX/サステナビリティ推進、企画・戦略企画担当者等)

実際のプログラム実施内容

- GXとネイチャーポジティブを共通言語として、政策・制度・技術・ファイナンスおよび実装手法を横断的に学ぶ全8回の講義
- ハイブリット・オンデマンド
- 各回ミニレポート提出あり

成果サマリー

満足度

- 93.5% (「とても満足」「やや満足」と回答した修了者の割合)

受講生の声

- 先進企業や金融分野など、現場の実体験・肌感覚を直接聞いた点が期待以上だった。
- 企業事例（ビジネスへのつなげ方・実装の工夫）が具体的で、実務視点で学びが大きかった。
- 技術領域だけでなく、社会全体の動きや資金の流れ（金融）の観点まで含めて理解を深められた。
- 「なぜGXなのか」を俯瞰して整理する講義があり、全体像を掴みやすかった。
- 脱炭素と生物多様性を分断せず、トレードオフも含めて統合的に考える必要性が、科学的背景とともに示され有益だった。

波及・今後

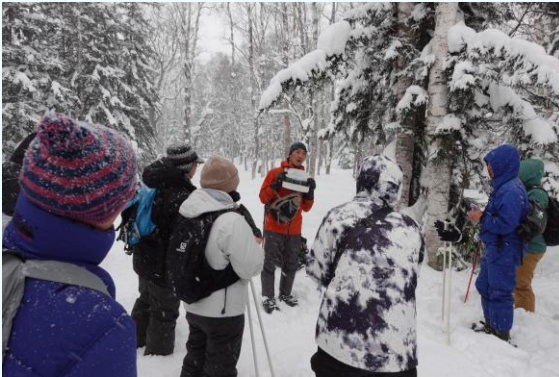
- 来年度もGXプログラムを継続実施予定

GX未来社会デザイン実践プログラム（応用編）

プログラム内容

プログラム写真

- フィールドワークとグループワークの様子



受講者数

- 12名（基礎編受講生＋学生）

実際のプログラム実施内容

- 森林生態系の長い時間軸を体感し、気候変動時代の企業の未来像を描く2泊3日の集中プログラム。
- 現場観察と森林研究者との対話で得た気づきを、デザインとアントレプレナーシップの専門家とともに言語化・構想化し、プロトタイピングを通じて100年先の社会像と企業の役割へと落とし込む。

成果サマリー

満足度

- 100%（受講生全員が「非常に満足」と回答）

受講生の声

- 森林研究や地域の現状を踏まえ、長期視点・自然視点を自社の活動や企画に取り入れ、意義を見出してストーリーを描く重要性を実感した
- 北大のアプローチ（現状把握→将来予測→課題設定→解決策検討）を机上で実践でき、事業におけるバックカスティングの心理的ハードルが下がった
- 自然との共生／ネイチャーポジティブは、ビジネスとしての実現性だけでなく「与えるインパクト」を重視して考える視点が得られた
- 自身がGX・カーボンニュートラルを推進する立場にあり、実務として向き合う必要性を再認識した
- 森林を守りつつ多様性を担保しながらマネタイズする難しさ、維持管理には担い手の知識・技能が不可欠であることを学んだ
- 戦略は「今できそうなこと」に過度に縛られず、意味のある大きな目標を恐れずに設定する必要があると感じた

波及・今後

- 来年度も同様なプログラムを実施予定
- 研究者、企業ネットワークによる情報交換・学びの場を検討中

GX未来社会デザイン実践プログラム（基礎編・応用編）

プログラム詳細

GX未来社会デザイン実践プログラム（基礎編）

- 講義期間：オンデマンド視聴期間 10月～1月
- 実施時間：18:15～19:45（90分）
- 修了要件：各回講義後のミニレポート（200～300字）の提出
講義内の主要キーワードを2語以上用いて記述
レポート提出をもって「出席」扱い
出席回数が6回以上

	テーマ	講師
第1回	GXとは何か？	北海道大学 大学院工学研究院 教授 石井 一英
第2回	我が国のGX政策について	経済産業省 GXグループ 環境政策課 課長補佐 池園 京佳
第3回	排出量算定とLCA（Life Cycle Assessment）	一般社団法人サステナブル経営推進機構 サステナブルデザイン実装事業部 部長/統括研究員 中澤 克仁
第4回	今すぐ取る企業アクション	日本ハム株式会社
第5回	エネルギー転換と関連技術	北海道大学 大学院情報科学研究院 教授 北 裕幸
第6回	ネイチャーポジティブとTNFD	北海道大学 大学院工学研究院 GX先導研究センター 特任教授 中山 隆治
第7回	GXを動かすお金	一般社団法人バーチャデザイン代表理事 東京大学教養学部客員教授 吉高 まり
第8回	2040から逆算する12か月GXアクション	GLIN Impact Capital コンサルティングチーム ディレクター 中塚 一徳

GX未来社会デザイン実践プログラム（応用編）

- プログラム日程：12月16日～18日（2泊3日集中合宿）
- 成果物：企業ビジョンTheory of Change・WEBプロトタイプ

日程			講師
12月16日	ガイダンス	研究林概要	
	フィールドワーク①		
	ミニレクチャー	100年後の道北の森を見据える	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授 小林 真
12月17日	ミニ講義	林業を変える！持続可能な資源の利用	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 吉田 俊也
	フィールドワーク②		
	ワークショップ①	未来の森の暮らしをデザインする	東京大学大学院学際情報学府 日本学術振興会 特別研究員（DC）中條 麟太郎
12月18日	ワークショップ②	インパクトから未来の道筋を描く	九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター准教授・東京大学情報学環客員准教授 松井 克文
		最終発表	

GXプロフェッショナル + Rプログラム

プログラム概要

① 名称

- GXプロフェッショナル + Rプログラム

② 目的

- GX (特に脱炭素分野/バイオ炭)を推進する「社会実装人材」の育成

③ 対象者層

- 企業の多様なニーズを踏まえ、GXによる事業創造に直接携わる事業立案者、GXにより自社の変革を推進する経営者層など3層を想定

④ 育成する人物像

- GXに関する総合的な知識と実践的なスキルを習得し、GXを業務や経営に「実装」できる人材
- 具体的な脱炭素技術や制度を学び、実務に取り入れられる人材
- 次期経営層（役員層）として、GX×経営に関連した知識を網羅的に習得した上で、自社経営で実践できる人材

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから申し込み
- 「学びのプラットフォームMIRAI」 <https://www.ritsumeai.ac.jp/open-univ/>

担当連絡先

- 立命館大学 社会連携課
- Mail : acr02@st.ritsumeai.ac.jp



カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 企業ニーズを踏まえ、GXの基礎知識習得者から、事業立案者、経営者それぞれに対応し3のプログラムを設置。GXに関する総合的な知識と実践的なスキル習得を通じて、GXを業務や経営に「実装」できる人材を育成。

第1層 GXエッセンシャル

GXの基礎知識を身につけ業務に活かす土台を形成

第2層 GX-BCR (GX - Biochar Carbon Removal)

BCRを活用し、GXに貢献する新規商品やサービスを創出

第3層 GX経営

脱炭素の重要性・世界的潮流を十分に理解し、経営層視点から自社のトランスフォーメーションを推進

② アピールポイント

- 修了者にはデジタルバッジを発行予定
- ー 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能に



GXプロフェッショナル + Rプログラム | 第1層 GXエッセンシャル

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

申込者 200名 (内学生110名、社会人90名) * 2026年2月6日時点

* 申込者数は本講座のみ

* オープニング講座は257名申込

実際のプログラム実施内容

開講形式：オンデマンド (全10回 + オープニング講義)

開講期間：2025年9月22日 (土) ~ 2026年2月28日 (土)

デジタルバッジ発行要件：本コース全10回すべてを受講し、かつ指定した期間内に所定のテストを受検し合格した方

成果サマリー

満足度

- 71.2% (「非常に満足」「満足」と回答した受講者の割合)

*2026年2月12日時点

受講生の声

- 多面的なテーマが体系的に整理されており、気候変動とGXを理解する上で重要な要素を総合的に学ぶことができた。
- 今後始まる、FIP制度に関して情報を収集し、引き続き再生エネルギー増加に寄与していきたいと考えている。
- 脱炭素に関する知識領域を幅広く理解することが出来た。自身の業務範囲を超えて技術・政策の両面に渡り視野を広げることが出来、下記のような意義を感じた。
- 温暖化のメカニズムはより複雑化している。科学は常に更新されるものであり、固定的な真理として扱うべきではないという姿勢を学んだ。
- CDRには多様な方法があることを知り、技術的選択肢の広さに驚いた。一方で、「CO₂を地下に埋めるという行為を100年後の人々はどう評価するのか」という倫理的疑問も抱いた。

※現在講座実施中のため、各回アンケートに寄せられたコメントを掲載。終了後、まとめアンケートを実施予定。

波及・今後

「学び続ける社会の拠点【人生の寄港 (校) 地】」となることを目指し、立命館は、引き続き、社会人教育、生涯教育を推進。

GXプロフェッショナル + Rプログラム | 第2層 GX-BCR

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

15名

製造業6名、建設業2名、ガス・エネルギー2名、分析・研究3名、サービス業1名、財団法人1名。役職は代表取締役から現場担当者まで幅広く、環境・サステナビリティ関連所属12名、代表取締役社長2名。

実際のプログラム実施内容

内容・回数：

「環境価値とバイオ炭による炭素除去」「GXと政策及び炭素クレジット」「GXとLCA手法」など、全8回

会場：グングリーン大阪・ROOT（大阪・梅田＊本学拠点）

デジタルバッジ発行要件：

- ① 講義への出席率が6割以上
- ② 課題（アクションプランの作成）の提出 ※①②の両方を満たす者

成果サマリー

満足度

- 92.0%（「非常に満足」「満足」と回答した受講者の割合）

*2026年2月12日時点

受講生の声

- バイオ炭について知識を得ることが出来た。化学的な理解を深掘りしてみたい。
- バイオ炭というものを正確に理解できた講義であった。なぜヨーロッパでは進んでおり日本では展開しづらい理由を学ぶことができとても有意義な講義であった。
- 大変闊達かつ具体的な質問へ真摯にご回答いただき、現状制度が未熟な状態であるところ、クレジットの資産価値への展望と確証において不確実な要素が多い等、こういった不安定な問題は解決はせず、同時並行的に存在し続けるというご指摘は、自身の疑問を氷解させるもので、しっかりとした腹落ちをさせていただきました。

※現在講座実施中のため、各回アンケートに寄せられたコメントを掲載。終了後、まとめアンケートを実施予定。

波及・今後

「学び続ける社会の拠点【人生の寄港（校）地】」となることを目指し、立命館は、引き続き、社会人教育、生涯教育を推進。

GXプロフェッショナル + Rプログラム | 第3層 GX経営

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

受講生：14名

製造業6名、建設業2名、官公庁2名、エネルギー1名、コンサル1名、人材業1名、イベント企画1名。役職は全て主任以上クラスで、環境・サステナビリティ関連部署所属 10名、代表取締役社長3名。

実際のプログラム実施内容

内容・回数：

「GXと経営戦略」「GXと政策・制度」「GXと環境経営」「GXと市場」「GXとDX」など、全10回

会場：グングリーン大阪・ROOT（大阪・梅田＊本学拠点）

デジタルバッジ発行要件：

- ① 講義への出席率が6割以上
- ② 課題（アクションプランの作成）の提出 ※①②の両方を満たす者

成果サマリー

満足度

- 93.6%（「非常に満足」「満足」と回答した受講者の割合）

*2026/2/12日時点

受講生の声

- 今回は導入講義ということでわかりやすくGXの概要を教えて頂き感謝いたします。残り9回の講義を経て、しっかりと自社のアクションプランに落とし込んでいければと思っております。
- 今回は国内外の政策・市場動向、我が国のGX政策についてというテーマでしたが、初めて聞くことが多く大変参考になりました。
- 現在、自社でScope1-3の算定を行っている状況下、今回のGHG排出量可視化の意義に関する講義は非常に有益でした。
- 現在進行形で、弊社内でカーボンプレジットの購入を検討していましたので、クレジットの各方法論の詳細解説は勉強になりました。

※現在、講座実施中のため、各回アンケートに寄せられたコメントを掲載。終了後、まとめアンケートを実施予定。

波及・今後

「学び続ける社会の拠点【人生の寄港（校）地】」となることを目指し、立命館は、引き続き、社会人教育、生涯教育を推進。

GXプロフェッショナル +Rプログラム | 第1層 GXエッセンシャル

プログラム詳細

GXの基礎知識を身につけ業務に活かす土台を形成

オープニング講座「エッセンシャル講座でGXの基礎知識を身につけよう！」無料



第1回 気候変動のメカニズム・影響予測・目標レベル



第2回 気候変動を巡る国際的議論と国際法制度整備の歴史



第3回 カーボンニュートラルに向けた国際潮流（主要地域・国の動向）



第4回 日本のカーボンニュートラルとGX関連制度



第5回 カーボンニュートラルと炭素回収・貯留・利用



第6回 カーボンニュートラルに向けた日本の政策展開と課題：再エネ普及に焦点を当てて



第7回 カーボンニュートラルとESG金融



第8回 カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミー



第9回 カーボンニュートラルと地域社会～京都市の気候変動対策について～



第10回 ナッジ（情報提供）による電力消費の行動変容



気候変動のメカニズムから国際交渉の歴史、パリ協定目標の科学的背景まで、カーボンニュートラルに向けた基礎知識を学ぶ。また、日本の再エネ関連制度やGX関連制度、炭素回収貯留、金融、循環経済との関連、地域社会におけるカーボンニュートラルの取り組みについても詳しく解説し、GXの基礎知識と企業における業務との関連性を具体的に理解できる内容とする。



／修了者にはデジタルバッジを発行予定／



プログラムコーディネーター
島田 幸司 立命館大学経済学部教授

GXプロフェッショナル +Rプログラム | 第2層 GX-BCR

プログラム詳細

対面開催。BCRについての理論と実践を少人数でよりインタラクティブに行う

コマ 原則 月曜日	学習項目	詳細	担当講師
1 25/12/1	環境価値とバイオ炭による炭素除去	環境価値とバイオ炭の炭素貯留によるカーボンマイナス・ビジネスエコシステムの形成について紹介・議論	依田 (立命館大) 羽田 (シグマクス)
2 25/12/8	GXと政策及び炭素クレジット	炭素除去に関連する主要国の政策・国際イニシアティブ、除去系クレジット市場の主要アクターの動向を紹介・議論	木村 (exroad)
3 25/12/15	GXとLCA手法	バイオ炭を用いた炭素除去効果の評価手法と事例を通じた演習	中野 (立命館大)
4 26/1/19	バイオ炭の特質と方法論	バイオ炭の特質と炭素貯留による炭素除去の方法論の詳細	岸本 (農学博士)
5 26/1/26	自然資本における脱炭素	炭素循環と土壌サービス (微生物)	TRAN (立命館大)
6 26/2/2	地域エコシステムの実践	バイオ炭と炭素除去	柴田 (立命館大)
7 26/2/9	地域エコシステムの実践	地域ローカルエコシステムの形成事例	依田 竹下 (長大) (T.B.D) 藁 (アサギリ) (T.B.D)
8 26/2/16	ワークショップ	GXの実践 (自社を含めたエコシステム形成・促進の提案検討)	依田・柴田・美濃出・羽田

自社の技術・ビジネスを深く理解し、**BCR** (バイオ炭を活用した炭素除去) を活用し、直接的に**GX**に貢献する新規商品・間接的に**GX**を支えるサービスの創出など、社会に向けたトランスフォーメーションを仕掛けられるようになる。上記に伴い、**GX**関連のカーボンオフセットやカーボンインセットによる**KPI**のブレイクダウンや各部署への提案を実施できるようになる。



プログラムコーディネーター
依田 祐一 立命館大学経営学部教授

／修了者にはデジタルバッジを発行予定／

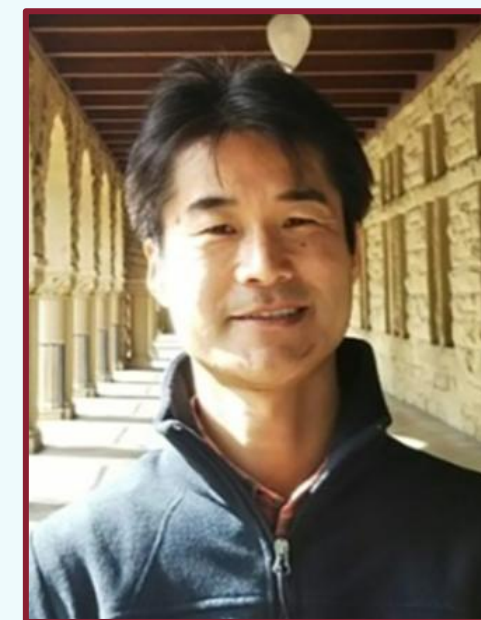
GXプロフェッショナル +Rプログラム | 第3層 GX経営

プログラム詳細

サステナビリティ経営の理論的な背景や政策・外部環境、実践例の面から、**GX経営**についての理解を深め、ワークショップを通じた自社アクションプランのアウトプットにつなげる

コマ 原則 木曜日 19:00-20:30	学習項目	概要	担当講師
(1) 25/11/20	GXと経営戦略	冒頭：イントロダクション：本講座の進め方（立命館大 依田） GX戦略による企業価値創造の可能性と課題について紹介・議論する	Raupach（立命館大）
(2) 25/11/27	GXと政策・制度	海外主要国と日本のGX政策の比較、GXを巡る国際機関や主要な国際インシアティブの動向などについて説明し、 現在日本企業が置かれた事業環境を大局的に捉える視座を提供する	木村（exroad）
(3) 25/12/3 *水曜日	GXと環境経営	GHG排出量可視化の意義と方法（サプライチェーンを通じた環境負荷評価の必要性と算定方法）	中野（立命館大）
(4) 25/12/11	GXと市場	カーボンプレジット市場の最新動向—拡大する需給ギャップと創出の戦略的価値	中野（Carbon EX）
(5) 25/12/18	GXとDX	環境価値を創造しGXを推進するDXに着目し、先進企業の実践例とビジネスのしくみの革新について紹介・ 議論する	依田（立命館大）
(6) 26/1/22	自然資本と炭素クレジット	自然由来炭素クレジットに代表される自然資本へのファイナンスを通じたGX推進について紹介・議論する	美濃出（立命館大）
(7) 26/1/29	GXとスタートアップ	GXを促進するスタートアップのケース	林（立命館大）
(8) 26/2/5	GXとルール形成	社会的インパクト創出に向けたオープンイノベーション	徳田（立命館大）
(9) 26/2/12	ワークショップ	GXの経営戦略（自社アクションプラン作成）	依田、Raupach、美濃出
(10) 26/2/19	ワークショップ	GXの経営戦略（自社アクションプラン作成、ディスカッション）	依田、Raupach、美濃出

脱炭素の重要性・世界的潮流を充分に理解し、経営層視点から自社経営のトランスフォーメーションを推進できるようになる。



プログラムコーディネーター
依田 祐一 立命館大学経営学部教授

／修了者にはデジタルバッジを発行予定／

SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

② 目的

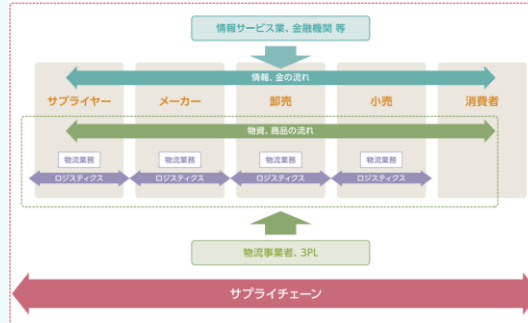
- SC(サプライチェーン)全体を俯瞰できるプロフェッショナル人材の育成

③ 対象者層

- メーカー、卸売、小売、物流事業者、3PLなど物流関連業種を中心に、情報サービス、金融系等広範な業種のSCM部門の管理職層

④ 育成する人物像

- 自社範囲の物資、商品の管理だけでなく、自社に関係する製配販の垂直の流れ、さらには同業他社との連携など広範囲に展開するSC全体を俯瞰、管理するために必要な知識と考え方を持つ人材
- SCMに関する知見、関連するロジスティクス基礎・データサイエンスの基礎などの知識の向上等により、SC全体をマネジメントできる人材



申込方法

- 下記サイトから申し込み（次年度分準備中）
- <https://www.rku.ac.jp/about/efforts/recurrent/>

担当連絡先

リカレント教育センター

Mail : recurrent@rku.ac.jp Tel : 047-709-1896

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

座学と実習・実践を組み合わせたプログラム

- 座学と企業事例、企業見学、ケースメソッド、SCM関連データを用いたデータサイエンスプログラムなど、実習を組み合わせた実践的なプログラムを「基幹講義」「選択講義」「実践研修」で構成
- 「基幹講義」では、SCMの知識を習得すると同時に、データサイエンスを基礎から学び、SCM運営に数値利用する学習を実施
- 「選択講義」では、不足している知識（物流・ロジスティクス・考え方・情報整理等）を学習
- 「実践研修」では、ケースメソッド、実務家による企業事例報告、ゲーム理論による学習、現場見学会を実施

産学からの講師陣

- 本学関係者による理論の側面と企業関係者による実務の側面での講師

B アピールポイント

修了者にはデジタルバッジを発行

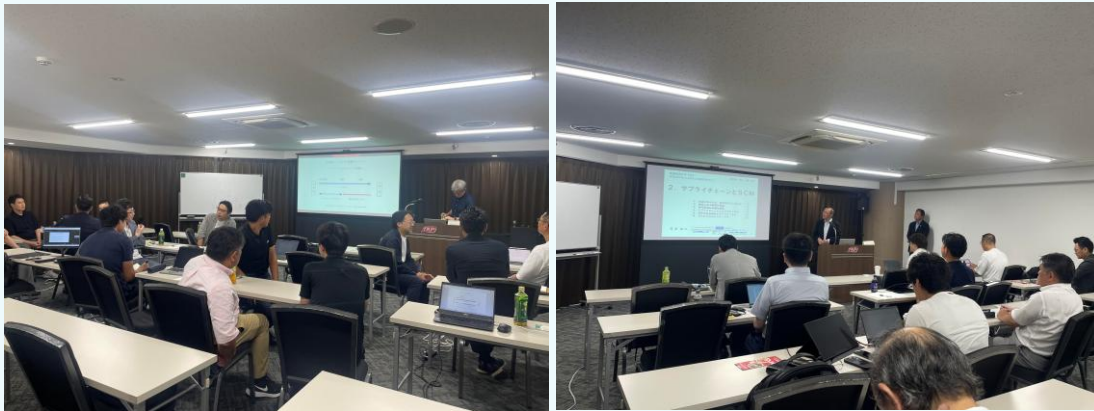
- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能



SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

プログラム内容

プログラム写真



ワークショップ風景

スクーリング風景

受講者数

- 13名
- 補講・体験：対面14名・オンライン114名
- シンポジウム：対面44名・当日オンライン183名

実際のプログラム実施内容

- 基幹講義 21講義 / 選択講義 14講義
- ワークショップ 3回 (SC game 1回、ケースメソッド 2回)
- 企業現場視察 2か所
- 補講 3講義 (体験受講 1講義含む)
- シンポジウム 1回

成果サマリー

満足度

- 3.9 (受講者へのアンケート結果から)

受講生を輩出した企業の声

- 会社への報告では、課題はあるようであるが、講義自体はよく、継続して参加する意義があると聞いている。
- 今回は幹部向けということであったが、ケースメソッドなどが企業では取り組めないため、非常に刺激のある構成であったと聞いている。
- 新入社員向けの講義などについて実施するのであれば、会社として取り組みを検討していきたい。
- 会社として次年度も参加させていく方針である。

受講生の声

- 網羅性のある講義で知識のブラッシュアップができた。
- 体系的に知識を整理することができた。企業訪問が刺激を受けた。
- 足りなかった知識を補うことができた。

波及・今後

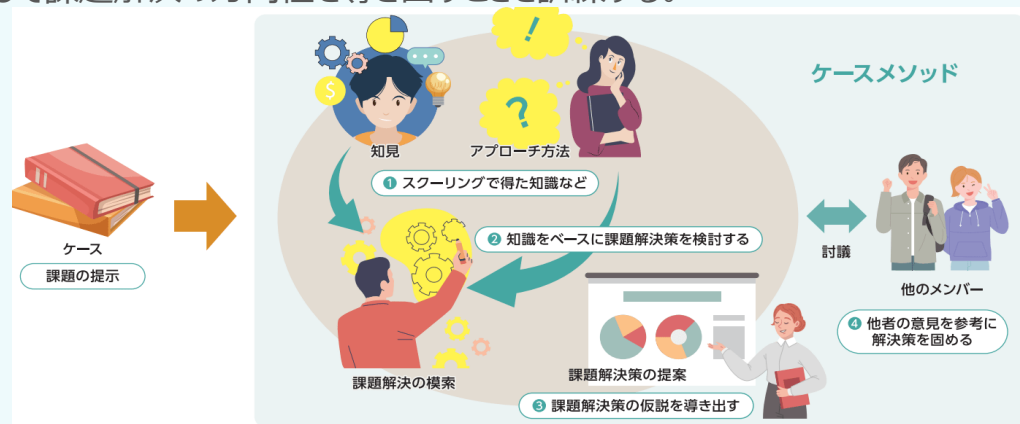
- 2025年度から開講している「SCMプロフェッショナル人材育成プログラム」を参加者の意見を踏まえた改善だけでなく、2026年度は、「SCMオンデマンドプログラム」として「国内SCMコース」「国際SCMコース」「AI・データサイエンスコース」、新入社員向けとして「SCM入門プログラム」を開設し、企業ニーズにこたえていく。

SCMプロフェッショナル人材育成プログラム

プログラム詳細 (特徴的なプログラム)

ケースメソッド

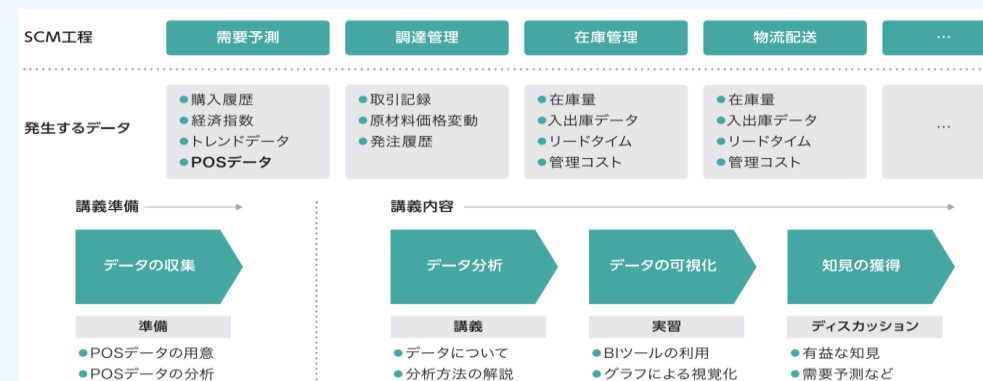
- 実際の出来事が書かれた「ケース」を討議する形式で行う。
- ケースにより導き出せる課題に対応した設問に対して、個人もしくはグループが当事者としてどの課題解決策を意思決定し、ほかの受講者と協議の上で最終的な意思決定の方向性を模索する。本講座で得た知見やアプローチ方法などを駆使して課題解決の方向性を導き出すことを訓練する。



- ケースメソッドには決まった答え(解決策)はなく、ここで導き出した解決策をベースに討議などを実施。

データサイエンスプログラム

- SCMを効果的に最適化するには、より正確な需要の予測、安定かつ低コストな調達先の確保、適切な在庫管理、効果的な輸配送などの複合的な改善が重要。
- そのためには各工程で生ずるデータを集約し、データ分析をおこない有益な知見や情報を得る必要がある。そのための手法にデータサイエンスがあり、1.データの収集と整形、2.統計解析やAIによるデータ分析、3.特徴の可視化、4.有益な知見の獲得の手順で行われる。
- この講義では、SCMの需要予測に焦点を当て、実際のPOSデータを使い、データ分析(講義形式)、特徴の可視化(実習形式)、知見の獲得(ディスカッション)を行い、DXを進めるうえでのデータの重要性を再確認する。



※2025年度、データサイエンスプログラムの追加講義及び次年度の体験講義「AIとSCM～ロジスティクスにAIを導入するプロセス、AIとSCMの親和性と課題」を実施。

SCMリカレント教育プログラム

プログラム概要

① 名称

- SCMリカレント教育プログラム

② 目的

- 複雑化する事業環境においてSCを牽引する高度専門人材の育成

③ 対象者層

- 大企業のSCM部門の部課長クラス、物流企業・荷主企業の経営・マネージャー層（係長クラス以上）

④ 育成する人物像

- サプライチェーン全体を俯瞰し、バランスよく判断できる人材
- 地政学リスク、物流2024年問題、デジタル化、脱炭素化などの複雑な事業環境に対応し、データ駆動型の意思決定ができる人材
- 部門横断的な視点でSCM戦略を立案・実行し、組織全体の最適化をリードできる人材
- AI・IoT・ビッグデータ分析等の最新技術をSCMに活用し、サステナブルSCMの設計によりESG評価向上に貢献できる人

申込方法

- <https://ti.t.u-tokyo.ac.jp/programs/scm-re> から申し込み

担当連絡先

- 東京大学 工学系研究科 附属 トランスポートイノベーション研究センター
Mail : scm-re@ti.u-tokyo.ac.jp Tel : 03-5841-6990

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

● 理論と実務を一体で捉える統合型カリキュラム

- SCMの基礎理論から応用、最新技術・市場動向までを網羅し、演習・ケーススタディを交えながら戦略視点での理解を促進
- 学術的裏付けと産業界のニーズを融合し、即戦力人材の育成を目的としたカリキュラム設計

● オンラインと対面のハイブリット学習

- 基本的には講義はオンラインとし、主な受講生として想定している、本業で忙しい次世代リーダー層の負担は軽減しつつ、
- 一方で、演習や実地研修は対面とし、履修の上で必要な重要な内容は的確に押さえる構成

② アピールポイント

● 産学連携による実践的プログラム

- 東大教員と実務家講師が約半々で担当し、日本を代表とする企業のケーススタディを通じて実践的な知見を習得
- PBL型アドバンスト演習では、企業の実際の課題をテーマに大学院生と協働で3ヶ月程度の共同研究活動を実施

● 修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 保有スキルの社内外での可視化が可能で、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能

SCMリカレント教育プログラム

プログラム内容

受講者数

- 28名（うち聴講生3名）

実際のプログラム実施内容

- 実施期間**：2025年10月25日～2026年2月7日
- 講義・演習回数**：33回（講義24回、演習6回、現場研修1回、成果発表1回、海外ゲスト講演1回）
 - ✓ 対面実施：16回（土曜日開催／現場研修・演習・ゲスト講義・成果発表）
 - ✓ オンライン（ハイブリッド）実施：17回（平日夜開催／理論講義）
- カリキュラムの構成と推移**
 - ✓ 第1回～第5回（導入・戦略論）：SCMの全体像、経営戦略との接続、および数理科学的アプローチの基礎（渋滞学等）を集中的に学習し、全体俯瞰の視座を醸成。
 - ✓ 第6回～第15回（理論とシステム思考）：在庫理論、サプライチェーンネットワーク設計等の基礎理論に加え、システムダイナミクスやDX活用（アパレル業界事例等）を通じ、複雑な事象を構造化するスキルを習得。
 - ✓ 第16回～第24回（先端技術とリスク管理）：AI・機械学習の基礎とSCMへの応用、地政学リスク、環境対応（GX）について、専門家講義および演習（ゲーム理論・経済実験）を通じて実践的に学習。
 - ✓ 第25回～第32回（発展・総括）：ファイナンス、循環型経済、フィジカルインターネット等の発展的トピックを学ぶとともに、最終回にて自社課題解決に向けた提案発表（「アドバンスト演習（PBL）」への接続）を実施。
- 現場研修の実績**
 - ✓ 実施日：令和7年11月8日（土）
 - ✓ 訪問先：東京港大井地区周辺（物流倉庫・コンテナターミナル等）

成果サマリー

満足度

- 4.84 / 5.00点満点（アンケート結果等）
- 他者への推奨意欲：4.58 / 5.00点満点

受講生を輩出した企業の声

- 期待との合致：東大教員による先端理論と、ユニクロやアマゾン等の実務家講師による具体事例が融合しており、期待していた「実務への応用力」と「視座の引き上げ」の双方において高い評価を得られた。
- ニーズへの適合度：「2024年問題」や「地政学リスク」といった直近の経営課題に直結するカリキュラムであり、特にDX・データ活用への意識変革において企業ニーズと強く合致した。

受講生の声

- 意識変革：「自部門の個別最適に陥っていた視点が、サプライチェーン全体の最適化を考える視点へと大きく変化した」「通常の業務では接点のない他業界（製造、物流、商社等）の受講者と議論することで、多角的な視野を獲得できた」
- 習得スキル：「数理モデルを用いた在庫最適化の理論」「システムダイナミクスによる因果関係の可視化」「生成AIを活用した業務プロセスの設計」など、即座に実務に応用可能な具体的スキルを習得した。

波及・今後

- 令和8年度（2026年度）は、受講者の要望を反映し、開講時期、講義時間、内容を変更し、大幅に拡大する。
- 自社課題を解決する「アドバンスト演習（PBL）」を提供し、さらに本格的な産学共同研究へと発展させるエコシステムを構築する。

SCMリカレント教育プログラム

プログラム詳細

	実施日	曜日	開始時刻	終了時刻	時間(分)	形態	予定題目	講師
1	2025/10/25	土	13:00	15:00	120	対面	イントロダクション・SCMの全体像	東京大学 教授 青山和浩、 東京大学 プロジェクトリサーチフェロー 井村直人
2	2025/10/25	土	15:30	17:30	120	対面	演習①（自身のスキル棚卸と目指す姿）	東京大学 教授 青山和浩、 東京大学 プロジェクトリサーチフェロー 井村直人
3	2025/10/29	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMと産業競争力	早稲田大学 教授 藤本隆宏（東京大学名誉教授）
4	2025/10/31	金	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMにおける先端数理科学の活用	東京大学 教授 西成活裕
5	2025/11/5	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMの基礎	ボストンコンサルティング パートナー 土澤耕一
6	2025/11/8	土	8:00	12:00	240	対面	現場見学会	Xフロンティア、コンテナターミナル（中防Y1）
7	2025/11/12	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	在庫理論と発注戦略	東京大学 准教授 川崎智也
8	2025/11/14	金	18:45	20:30	105	ハイブリッド	サプライチェーンネットワークの設計	東京大学 准教授 原祐輔、 BCG マネージング・ディレクター&パートナー 北川寛樹
9	2025/11/19	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	システムデザインとシステムダイナミクス	東京大学 教授 神方和夫
10	2025/11/22	土	13:30	15:00	90	対面	アパレル業界におけるサプライチェーンのDX推進	フクミー 代表取締役社長（東京大学 学術専門職員） 田上剣太郎
11	2025/11/22	土	15:15	16:45	90	対面	演習②（在庫理論・ネットワーク設計）	東京大学 教授 青山和浩、 東京大学 システム創成学 劉静維
12	2025/11/22	土	17:00	18:30	90	対面	演習③（SCM Gameによるシステムダイナミクス）	東京大学 教授 青山和浩、東京大学 准教授 原祐輔
13	2025/11/26	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMとサービス学	東京大学 准教授 原辰徳
14	2025/11/28	金	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMにおけるゲーム理論の応用	東京大学 教授 西野成昭
15	2025/12/3	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMとロボティクス	東京大学 教授 太田順
16	2025/12/6	土	13:00	14:30	90	対面	演習④（ゲーム理論・経済実験）	東京大学 教授 西野成昭
17	2025/12/6	土	14:45	16:15	90	対面	SCMにおけるAI活用への期待	東京大学 教授 松尾豊
18	2025/12/6	土	16:30	18:00	90	対面	グローバルD2Cリテールブランドから見るSCMの設計と実行について	GDX 代表取締役社長 伊川賢二郎
19	2025/12/10	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMに活用できる機械学習モデルの基礎	東京大学 准教授 岩澤有祐
20	2025/12/12	金	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMのための地政学	東京大学 准教授 柴崎隆一
21	2025/12/17	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMに関する我が国の政策動向及び進むべき方向性	国土交通省 物流・自動車局 物流政策課課長補佐 五十嵐俊祐
22	2025/12/20	土	13:00	14:30	90	対面	SCM業界におけるGX・新たな社会価値	東京大学 教授 田中謙司
23	2025/12/20	土	14:45	16:15	90	対面	演習⑤（物流の「平準化」への挑戦）	JDSC 佐藤飛鳥、森浩太
24	2025/12/20	土	16:30	18:00	90	対面	倉庫現場の実オペレーションとその効率化	withRiver 代表取締役社長 白川久美
25	2026/1/7	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMにおけるゲーム理論の応用vol.2	東京大学 教授 西野成昭
26	2026/1/10	土	13:00	14:30	90	対面	ファイナンスからみたSCMパフォーマンス	BCG マネージング・ディレクター&パートナー 北川寛樹
27	2026/1/10	土	14:45	16:15	90	対面	演習⑥（シナリオデザイン）	東京大学 准教授 木下裕介
28	2026/1/10	土	16:30	18:00	90	対面	外航海運業に関する実務と現状の理解	日本郵船 調査グループ長 林光一郎
29	2026/1/14	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	循環型経済の実現に向けて	東京大学 教授 村上進亮
30	2026/1/16	金	18:45	20:30	105	ハイブリッド	農産品・食品のSCMにおける厄介な問題	日本大学 教授 神井弘之
31	2026/1/21	水	18:45	20:30	105	ハイブリッド	SCMとフィジカルインターネット～システムイノベーションの視座からの俯瞰～	野村総合研究所 主席研究員 藤野直明
32	2026/1/28	水	18:45	20:30	105	オンライン	Physical Internet: Opportunities & Challenges（海外ゲスト講演）	メルボルン大学 Russell Thompson教授
33	2026/2/7	土	13:00	17:00	240	対面	課題発表・PBL演習への接続	コーディネーター/担当教員

The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)

プログラム概要

① 名称

The Global Leader Accelerator Programme (GLAP)

- 早稲田大学ビジネススクール x オックスフォード大学サイドビジネススクール共同開発

② 目的

- 予測困難な社会情勢下で日本企業が持続的成長を遂げるために不可欠な次世代リーダーの育成

③ 対象者層

- 日本を代表する各産業の主要企業から選抜された次世代リーダー候補

④ 育成する人物像

- 「グローバルな視点と将来構想力」、「変化への対応と変革推進力」、「多様な人材を率いるリーダーシップ」の3つを涵養し、グローバルマインドセットを兼ね備えた実践的経営人材

申込方法

- HPより申込
<https://www.waseda.jp/fcom/wbf/education/executive/glap>

担当連絡先

- 早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター wibf@list.waseda.jp
- 早稲田大学アカデミックソリューション (株) 社会連携企画部
エグゼクティブ研修支援チーム [Mail: exe-edu@w-as.jp](mailto:exe-edu@w-as.jp)

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

事前協議・課題設定・集中研修・成果共有の4ステップで構成する次世代リーダー育成プログラム

- 開始前**：派遣元企業と事前に、育成したいリーダー像や必要なマインドセット・スキルを協議し、プログラム内容に反映する。
- プレセッション**：オンラインセッションで到達目標の明確化、リーダーシップアセスメントの実施、自社課題・個人課題の設定を行う。
- 研修期間**：5日間の宿泊型研修にて、集中的に講義と演習（アクションラーニング）を実施。経営知見を深め、課題を多様な視点から議論し、最終日に発表を行う。
- 終了後**：研修成果を社内で発表し、学びを共有する。

② アピールポイント

- 日本企業の経営に深い知見とネットワークを持つ早稲田ビジネススクールと世界トップクラスのオックスフォード大学サイドビジネススクールのグローバルな視点を融合した国際的な次世代リーダー育成プログラムを日本に居ながらにして受講できる。
- 持続的ラーニングコミュニティ基盤を構築し、プログラム修了後も相互に学びあい、成長しあえるネットワークを形成する。
- 修了者にはデジタルバッジを発行。
保有スキルの可視化とスキル証明ツールとしての活用が可能。

The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 41名（大手企業を中心とした企業派遣受講者・計27社からの派遣）
- オンライン公開講義（本セッションの一部を公開）20名（15社）

実際のプログラム実施内容

- オンラインによるイントロダクションセッション1回
 - 対面による5日間集中（宿泊型）セッション
Oxford講師、早稲田講師、外部ゲスト講師によるインタラクティブな講義と自社課題の演習
- ※ 次項に集中セッションのカリキュラムを掲載

成果サマリー

満足度

本セッション（2月16日～20日）実施後のアンケート結果

- 学習目的到達度：4.71(5点満点)
- 他の人に受講を勧めたいか：4.90
- プログラム全体の総合評価：4.88

受講生の声

- 「グローバルかつ日本企業の文脈に即した質の高い講義と、豊富なアウトプットの機会により、断片的だった知識が体系的な理解へと深まり、自組織を新たな視点で再定義する一助となった。また、多種多様な業界の次世代リーダーや一流の教授陣との密度の濃い議論を通じ、視座が高まるとともに、実務に即したマインドセットの変革を実感する機会となった。」
- 「自社課題を教授のコーチングで揉み抜いたことで、帰任後に即実行できる解像度の高いプランができた」

受講生を輩出した企業の声

- 既に継続派遣を希望している企業あり、継続フォロー中

波及・今後

- 来年度も本プログラムの継続を予定
- 修了者同士の継続的な情報交換・学びの場を構築
- 派遣企業に向け、希望に合わせて他の研修プログラムを推奨

The Global Leader Acceleration Programme (GLAP)

プログラム詳細 早稲田大学 x Oxford GLAP 2025

東京 対面開催 5日間 (講義会場: 宿泊 都市センターホテル)

本プログラムの目的

① グローバルに通用するリーダーの育成

複雑な戦略的課題を乗り越え、組織の足並みを揃え、組織のパフォーマンスと成長を牽引するために必要となる、最先端のマネジメント知識を備えたリーダーを育成する。

② 戦略的マインドセットと意思決定能力の構築

デジタルトランスフォーメーションやサステナビリティ (持続可能性)、地政学的リスクがビジネス環境を再構築している、相互に繋がった現代の世界において、効果的にリードするために必要な戦略的思考と意思決定能力を養う。

③ 実践的なインパクト創出のための統合力の強化

世界クラスのエグゼクティブ向けの知見を、日本独自の組織文脈に統合し、実効性のあるインパクトをもたらす能力を強化する。

④ リーダーシップの向上

早稲田大学とオックスフォード大学の教授陣による、集中型・協調的な学習を通じてリーダーシップを深化させ、参加者同士の交流や国際的な視点を養う。

講義1コマ=90分想定		2/16(月)	2/17(火)	2/18(水)	2/19(木)	2/20のみ↓	2/20(金)
9:00 - 9:20	イントロ	イントロダクション (OXFORD講師・早稲田講師)	前日のリフレクション (OXFORD講師・早稲田講師)	前日のリフレクション (OXFORD講師・早稲田講師)	前日のリフレクション (OXFORD講師・早稲田講師)	9:00 - 10:30	【講義】 グローバルビジネス環境における企業リーダーシップの機会と課題 (早稲田講師・池上重輔)
9:20 - 10:50	午前1	【講義】 イントロダクション: 戦略的思考とグローバル・リーダーシップ (OXFORD講師)	【講義】 パーパス主導のビジネス: ステークホルダーの共感を得る企業理念の策定 (OXFORD講師)	【講義】 独自の組織能力の構築: イノベーションの選択肢 (OXFORD講師)	【講義】 グローバルビジネス環境における企業リーダーシップの機会と課題 (OXFORD講師)	10:30 - 10:40	休憩
10:50 - 11:00	休憩						
11:00 - 12:30	午前2	【講義】 グローバルなビジネス環境の分析: 変革と破壊をもたらす要因 (OXFORD講師)	【講義】 競争優位性を高めるための企業理念とビジネス戦略の整合性確保① (OXFORD講師)	【講義】 11:15-12:45 AIによるビジネスシステム・アーキテクチャの進化 (早稲田講師・國領二郎)	【講義】 組織開発: 人材、企業文化、変革の優先事項 (OXFORD講師)	10:40 - 12:00	【演習】 受講生による自社の経営課題と解決策の発表準備 (早稲田講師)
12:30 - 13:30	昼食	ネットワーキング・ランチ	ネットワーキング・ランチ	12:45-13:30 ネットワーキング・ランチ	ネットワーキング・ランチ	12:00 - 13:00	ネットワーキング・ランチ
13:30 - 15:00	午後1	【講義】 アセスメントフィードバック (早稲田講師・村瀬先生)	【講義】 競争優位性を高めるための企業理念とビジネス戦略の整合性確保② (OXFORD講師)	【演習】 自社の経営課題の解決策の仮説アップデート / coaching ① (OXFORD講師・早稲田講師)	【演習】 自社の経営課題の解決策の仮説アップデート / coaching ③ (OXFORD講師・早稲田講師)	13:00 - 14:30	【演習】 受講生による自社の経営課題と解決策の発表 (早稲田講師)
15:00 - 15:10	休憩					14:30 - 14:40	休憩
15:10 - 16:40	午後2	【講義】 心理的安全性と包括的リーダーシップ (早稲田講師・イネスティーラー 笹 子)	【ゲスト講話】 早稲田 海外投資家からみた日本 (ダルトン・インベストメンツ / James B. Rosenwald III)	【演習】 自社の経営課題の解決策の仮説アップデート / coaching ② (OXFORD講師・早稲田講師)	【ゲスト講話】 Oxford 経営とリーダーシップ (例: グローバル企業の外国人経営者)	14:40 - 16:10	【演習】 受講生による自社の経営課題と解決策の発表 (続き) (早稲田講師)
16:40 - 18:10	午後3	【演習】 自社の経営課題の抽出および解決策の仮説構築 / coaching (OXFORD講師・早稲田講師)	【講義】 企業変革トランスフォーメーションにおける成功の要諦 (早稲田講師・佐藤克宏)	【講義】 オペレーションと戦略/組織/HRM/企業文化のリアライズ (早稲田講師・菅野寛)	【演習】 自社の経営課題の解決策の仮説アップデート / coaching ④ (OXFORD講師・早稲田講師)	16:10 - 17:00	【講義】 本講座の振り返り、受講生の key take away、評価アンケート実施 (早稲田講師)
	夕方	ウェルカムディナー			セレブレーションディナー		

※対面セッションに先立ち、事前オンラインセッション (1/19・3時間) を開催しました。

自信をもって、ビジネスの中心に

プログラム概要

① 名称

- 東女リカレント：自信をもって、ビジネスの中心に
事業創造×HRM×リベラルアーツで育成する高度専門人材（事業創造）

② 目的

- 昇進や新規事業に挑む女性に必要な戦略・ビジネススキルを養成する
- 本プログラムは、複数の企業と共同で開発した実践的な内容である

③ 対象者層

- 主に課長級・係長級の女性社会人を対象とし、昇進や新規事業への挑戦を支援する
- EY新日本有限責任監査法人/国分グループ本社/東京海上日動火災保険、双日労働組合、清水建設等の派遣受講生実務に即した学びを行う

④ 育成する人物像

- 企業の成長を支える事業創造人材として活躍しうる、課長級・係長級の女性を育成する
- 事業戦略・人材マネジメント・リベラルアーツの素養と視座を涵養する

申込方法

- 右のQRコードもしくは下記サイトから問い合わせ
- <https://twcu-empowerment.jp/contact/>



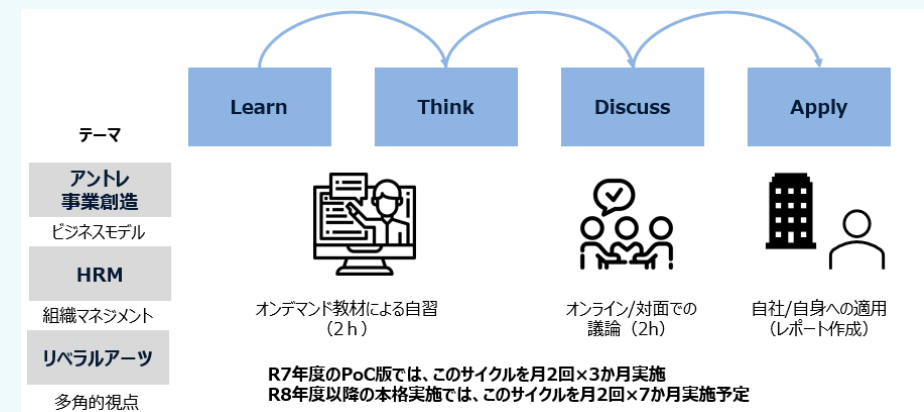
担当連絡先

- 東京女子大学 東女リカレント事務局（エンパワーメント・センター内）
- ec-2@list.twcu.ac.jp

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

- 事業創造・HRM・リベラルアーツを統合した実践的カリキュラムを提供
- プログラムは、オンデマンド動画・ディスカッション・実務適用を組み合わせた以下のような反転学習形式で、社会人が効率的に学べる設計



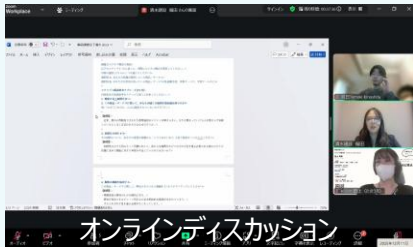
B アピールポイント

- 本プログラムは、事業創造、人材育成、働きがいの向上、ダイバーシティ経営などにおいて実績を有する企業と連携して開発
- 現場の実務感覚と理論を融合させた内容により、実践的かつ汎用性の高いスキル習得が可能

自信をもって、ビジネスの中心に

プログラム内容

プログラム写真



オンラインディスカッション



対面ディスカッション

受講者数

- 42名
- 性別** 女性30名、男性12名
- 年齢** 20代1名、30代22名、40代15名、50代4名
- 役職** 一般社員9名、係長・主任級21名、課長級8名、部長級1名、マネージャー2名、その他1名

実際のプログラム実施内容

前頁に示した反転学習方式にて、全3回の講座を実施

【各回の時間配分】

- オンデマンド動画（1時間）×2本
- 事前課題レポート（1時間相当）各回1、2テーマ
- オンラインor対面ディスカッション（2時間）
- 事後課題レポート（1時間相当）各回1、2テーマ

成果サマリー

満足度

- 約80% が「満足」「やや満足」と回答

受講生を輩出した企業の声

- リベラルアーツ・リーダーシップに特化することなく、新規事業や他社交流の側面があり、多角的な視点を養える
- 女性に重きをおいたユニークな研修
- 研修で得たことを部内に落とし込むなど、実務に落とし込むスキルを得ることができ、非常に有意義

受講生の声

- 今後のキャリアを考える上で、色々な刺激を得た
- 私は自ら議論に行くタイプではないが、女性のみの中では自分の意見を言うことが簡単だった
- 今後、リーダーを目指すにあたり論理的に組み立てることを磨いていきたい

波及・今後

- 来年度も「リベラルアーツ」「女性」を核に、事業戦略・人材マネジメントの素養と視座を涵養する講座を拡充して継続する
- 企業における無意識のジェンダー偏向に対する気づきを促す

自信をもって、ビジネスの中心に

プログラム詳細

目的

昇進や新規事業に挑む女性に必要な戦略・ビジネススキルを養成し、企業の成長を支える事業創造人材として活躍できる課長級・係長級の女性を育成する。

達成できること

- 昇進や新規事業開発に必要な知識・スキル・マインドセットを習得
- 講師や異業種の参加者とのディスカッションを通じたネットワークの構築
- 自社の有価証券報告書・統合報告書等の理解を深め、経営課題を自分事として分析する力の習得

講座内容

各回に動画視聴後の事前課題と、ディスカッションを経ての事後課題を実施。講師より各課題に対するフィードバックを実施。

第1回

オンデマンド動画・事前学習

正統と異端あなたはどちらを選ぶか

東京女子大学 学長 森本あんり

リーダーシップにおける見えない壁

～女性とアウトサイダーが直面する本当の課題～

東京女子大学 小西由樹子

オンラインディスカッション*

リーダーシップの本質

11月13日（木）9:30～11:30

11月20日（木）9:30～11:30

第2回

オンデマンド動画・事前学習

ビジネスの種を見つける力を磨く
課題発見&解決策の手法

東京女子大学特別客員教授 内田 和成

Job to be Done理論

東京女子大学 小西由樹子

オンラインディスカッション*

2つの理論を「一本の線」にする

12月11日（木）9:30～11:30

12月18日（木）9:30～11:30

第3回

オンデマンド動画・事前学習

Learning from Singapore

NUS Enterprise, Japan Centre Director 大場優

事業評価と実現

～Discovery-Driven Planning～

東京女子大学 小西由樹子

対面ディスカッション@東女*

「どの前提を、最初に疑うか」を体感する

1月15日（木）9:30～11:30

1月23日（金）9:30～11:30

*ディスカッションは2日間のうちどちらかを受講（リカレントPGとして業務調整に配慮）

社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

プログラム内容

① 名称

- 社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

② 目的

- 企業のデジタルトランスフォーメーションを主導できる人材の育成

③ 対象者層

- 30代～40代のミドルクラス（部課長級）のビジネスパーソン

④ 育成する人物像

- データサイエンスの基礎的概念を経営視点から理解するとともに、こうした知識を事業戦略や組織改革に結び付ける実践的応用力を兼ね備え、企業のデジタルトランスフォーメーションを主導できるミドルマネジメント層の人材
- 生成AIによる分析機能が急速に発展する中、データサイエンスやデジタルライゼーションの本質を理解し、質の高い仮説構築能力を身に着けた上で、自社の文脈に合わせてデータサイエンスを活用できる人材

プログラム専用サイト

- <https://www.sds.hit-u.ac.jp/dla2025/>

担当連絡先

- 一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科
<https://www.sds.hit-u.ac.jp/contact/>

成果サマリー

① カリキュラム特徴

● 理論と実践の統合を図るカリキュラム

- プログラムは基礎・応用・実践の三段階で構成
- 基礎段階ではデータサイエンスの概念を経営視点から理解し、応用段階では生成AI活用や可視化による意思決定プロセスを習得
- 実践段階では業界別事例と実データを用いた演習を通じて自社のデータ活用計画を策定。実際のビジネス課題に基づくケーススタディにより実践的応用能力を養成

● オンラインと対面のハイブリッド学習

- 社会人が効率的に学修できるよう、オンライン講義と対面ワークショップを組み合わせた構成
- 対面クラスは短期間の集中開催や夜間・週末の開講を想定

② アピールポイント

● 受講者の所属先企業とも連携したプログラム展開

- 受講者の学習目標の明確化、企業において必要なスキル要件、プログラムで取り上げてほしいテーマ等について企業側の担当者との緊密にコミュニケーション
- 企業内におけるデジタル人材の活用に向けて、企業の人事担当者向けの研修を実施

社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 18名（サービス金融から、商社、製造業、及び研究機関まで、幅広い企業・機関からの派遣受講者）

実際のプログラム実施内容

- オンライン学習（8～10科目の動画講義、各60分程度）
（統計・AIの基礎からデータドリブンマーケティング、特許データで読むR&D戦略などデータ思考の基礎を学ぶオリジナルコンテンツ）
- 対面ワークショップ3回（1回120分）
- クロージングセッション・成果発表会（120分）
（受講生に加えて派遣元企業の上司や人事担当者も参加）

成果サマリー

修了者アンケート結果（回答者 15名）

- **スキル自己評価の変化：受講前 2.20 → 受講後 3.20 (+1.00)**
 - プロの基準や「プロの眼」を獲得
- **メンター評価：4.87/5.00（15名中13名が満点評価）**
 - ワークショップ(WS)では、受講者1～2名に対し教員・大学院生TAなどがメンターとして個別指導
 - WSの評価も回を重ねるごとに上昇、伴走型学習の有効性を実証
- **今後の業務での活用意向：4.27/5.00**
 - “AI素人の状態で参加しましたが、今では積極的に業務で活用しています” – 受講生の声 –
- **社内 Agentic Coding 環境の導入希望：73%**
 - 企業での導入環境が追いついておらず、本プログラムの受講者がデータリーダーとして組織を動かす先駆者となることを期待

波及・今後

- 2026度以降は、一橋大学出資の株式会社である一橋大学イノベーションネクサス株式会社（HINexus）において、有料プログラムを展開予定

社会科学×データサイエンスによるデータ駆動経営人材育成プログラム

「一橋データリーダーシップアカデミー2025」を開講

- AIの基幹利用など、今後のビジネス経営において必要不可欠な要素である、データサイエンスの概念を正しく理解し、実務指導や経営の意思決定に活かせる「DXリーダー」を育成
- 30代～40代のビジネスパーソンをターゲットとし、受講者は15名程度
- オンデマンド型講習(8～10回)と対面ワークショップ(4回)により構成。DX経営リーダー育成に向け、文理のバックグラウンドを問わず習得できる内容

【オープニングセッション】2026年1月9日

【オンデマンド学習】1月中旬～2月上旬

【対面ワークショップ】2月4日, 2月18日, 3月4日

【成果発表会・クロージングセッション】3月23日

5回
オンライン開講
オンデマンド

1	データ思考の基礎
2	統計的思考
3	ベイズ的意思決定
4	機械学習とその活用
5	自然言語処理

3回
対面ワークショップ

参加企業が直面する課題を題材に
データ分析プロジェクトを企画する実践演習

さまざまなマネジメント局面に
即した実データや課題を用いたグループワーク

教員および現場のエキスパートで
構成するメンターによる指導・助言

5回
前期：オンライン
オンデマンド
後期：対面参加

1	データドリブンマーケティング戦略
2	合理的意思決定の実践
3	イノベーション創出の組織設計
4	ケーススタディ① 製造業DX実践
5	ケーススタディ② サービス業データ活用

1回
対面ワークショップ

参加企業の経営層や教員に対する
グループワークの成果プレゼンテーション

経営層、実践の先駆者である
マネジメント層のエキスパートによる
メンター及び教員による指導フィードバック

課題整理、フォローアップ報告書の提供

主な担当講師



野間 幹晴

経営管理研究科経営管理専攻
教授



七丈 直弘

ソーシャル・データサイエンス研究科
教授 プログラムディレクター



小町 守

ソーシャル・データサイエンス研究科
教授



福田 玄明

ソーシャル・データサイエンス研究科
准教授



加藤 諒

ソーシャル・データサイエンス研究科
准教授



永山 晋

ソーシャル・データサイエンス研究科
准教授

地域構想力育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 地域構想力育成プログラム

② 目的

- 既存事業の変革を促す能力を獲得する人材の育成・発掘

③ 対象者層

- 内需型企業や地域企業に所属する若手リーダー層他

④ 育成する人物像

- 既存事業の変革を促す以下の能力を獲得した人材
 - 地域資源の戦略的再評価能力
 - VUCA対応型課題解決力
 - 産官学連携デザイン力
 - データ駆動型意思決定能力
 - 次世代リーダーシップ構築力

実施校舎・受講料

- 仙台校、名古屋校、大阪校、福岡校
- 基礎編：1万円、基礎＋実践：5万円

啓発シンポジウムの開催

- 企業の人材開発責任者などが参加してのシンポジウムを福岡、大阪、名古屋で開催

参加人数

- 252名（プログラム受講者109名、シンポジウム参加者143名）

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 地域の企業・団体と連携した人材育成プログラム

コース	プログラム	実施校舎・地域
基礎	地域構想力の基礎講座	仙台校・名古屋校 大阪校・福岡校
実践 発表	企業課題を解決するアイデア構築のワークショップ 東北にある5つの企業・団体から課題の提示があり、課題解決に向けたアイデアを構築し、グループで提案する。 構想発表会を実施	仙台校 (東北5自治体) 岩手県・北上市 秋田県・角館市 宮城県・大崎市 福島県・南相馬市 山形県・酒田市

② 成果

- リスキングにこれまで関心がありつつも、敷居が高いと思っていた層から多くの受講者があった。
- 地域ごとの産官学金言の連携組織の構築により、情報交換、相互交流、ニーズの発掘ができた。
- 今回の受講を契機に、継続的なリスキングを希望する受講生も。

地域構想力育成プログラム

九州（福岡校）



関西（大阪校）



東海（名古屋校）



東北（仙台校）



VCP for Leadership

プログラム概要

① 名称

- VCP for Leadership
- ※VCP = Value Creation Program

② 目的

- 複雑な課題を発見、設定する
デザイン経営/高度デザイン人材育成

③ 対象者層

- 企業等で経営の意思決定に携わる方

④ 育成する人物像

- **クリエイティブコンフィデンス**：自身の中にある創造性を自覚し、創造することへの自信を得る
- **創造的構想力**：未来を構想しながら、社会や価値観の前提を創造的に問い直し、新たな視座を生み出す
- **ネガティブケイパビリティ**：複雑性や曖昧さを受け入れ、より良い意思決定を導く力を体得する

申込方法

- <https://vcp.musabi.ac.jp/> にて募集要項を公開、メール申込

担当連絡先

- ichigaya_campus@musabi.ac.jp



カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

• 「創造的思考力」によるリーダーシップ教育

- アート思考とビジネスに関する講義に加え、創造的思考力の基礎となる、創造的なマインドセット、視点、発想力、観察力、批判力を総合的に身につけるアートワークショップを実践
- 美術大学教育の特徴である【講評】を通じて、主観の交差、新たな視点が生まれる場の創出
- プロジェクトベースドラッシングに先駆けて、アンラーニング（既存の価値観からの脱却）の実践
- ブランド力とイノベーション力（企業競争力）向上のためのデザイン経営人材に必要な基礎力を涵養

② アピールポイント

- **アート・デザイン教育の専門家・研究者を中心とした実践的な講師陣**
- **美術大学の100年にわたる造形教育の蓄積を活かし、社会イノベーションに貢献できる人材を育成**
- **利便性の良い環境を提供**
 - アクセスの良い市ヶ谷キャンパス（東京都新宿区）を拠点として、参加者の利便性を考慮した環境を整備
- **修了者にはデジタルバッジを発行予定**
 - 獲得スキルの社内外への可視化が可能で、リーダーシップの証明や企業としての先進性や教育への投資姿勢のアピールをすることが可能

VCP for Leadership

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 17名（製造業、金融、商社などの経営層クラスを対象）

実際のプログラム実施内容

- アートパート：講義およびワークショップ：全1回（創造的思考力の涵養を目的としたワークショップが主体）
- デザインパート：全2回（ディストピア、経営者視点をもとに業務課題をテーマにした課題整理・施策検討）

成果サマリー

満足度

- 70%（「期待を超える」「期待通り」と回答した受講者の割合）

受講生を輩出した企業の声

- CEOや経営者そのものではなく、次期経営者候補に他社の方を交えて視座を獲得していくという点でも非常に有効
- 事業企画などを考える社員にとっては役に立つ
- 受講生のターゲットを絞る必要がある

受講生の声

- 非日常の情報インプットが多くあり、普段使わない脳の活性化になった
- 出来不出来はどうあれ、想いを形にするという行為が素晴らしいと思ったし、プロトタイプから始まると感じた
- ビジネス寄りではないHowでビジネスのど真ん中に貢献するプログラムにしたい
- 一緒に仕事を進めていくメンバーと意識を揃えたいと思う時に行きたい

波及・今後

- 来年度も本プログラムを継続実施予定であるが、アンケートからプログラム全体の課題点の指摘もあるためカリキュラム・スケジュールを再考する
- 参加企業社員向けプログラムの展開を計画している
- 修了者同士の継続的な交流の場を検討中

VCP for Leadership

プログラム詳細

Day 2 Critical Design Fiction

未来を構想しながら、社会や価値観の前提を創造的に問い直し、新たな視座を生み出す

2025年12月6日（土） 10:00-17:00

【プログラム】

- ・ インプット（講義）
- ・ ワーク1
- ・ ワーク2
- ・ 全体発表



Day3 Decision Design

経営リーダーとしての信念や葛藤に想像をめぐらせ、あるべき意思決定をデザインする

2026年1月10日（土） 10:00-17:00

【プログラム】

- ・ インプット（講義）
- ・ 個人ワーク
- ・ グループワーク
- ・ ラップアップ



Day1 Art Exercise

身体性を伴うアート体験により、日常的に凝り固まった思考や視点をほぐし、創造性の種を開花させる

2025年11月22日（土） 10:00-17:00

【プログラム】

- ・ インプット（講義）/美術的態度
- ・ ワークショップ：テーマ「寓意（アレゴリー）としてのアート作品をつくる」
- ・ 講評



Innovation Perspective Program

イノベーションのための視座を獲得するための創造的思考力育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- Innovation Perspective Program powered by VCP – イノベーションのための視座を獲得するための創造的思考力育成プログラム

② 目的

- 多角的な視点を得ること、得られた視点で見えてきたものを新たな組み合わせにより価値を創造する力を得る

③ 対象者層

- 専門的デザインスキルを持たない方を広く対象とし、それぞれの方が持つ専門力（ソフトウェア・ハードウェア、生産管理等）を別の分野（部署）で活用したい方や、企業等で汎用的に必要なデザインマネジメントスキルを獲得したい、獲得させたい人材

④ 育成する人物像

- 「観察力」「批判力」「発見力」「構想力」「表現力」を修得し所属企業やグループ企業など様々な部署における業務や技術を可視化することにより、共通の課題を発見、可視化し、それらをデザインによって解決できる人材

申込方法

- 個別企業ごとに対応

担当連絡先

- ichigaya_campus@musabi.ac.jp

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

• オンデマンドで受講し、提出課題に講評を受ける

- 本学通信教育課程で培った教育プログラム、手法を用いた社会人向けプログラム
- プログラム背景には造形的基礎力を涵養する通信教育課程での授業を用いており、「観察力」「批判力」「発見力」「構想力」「表現力」の基礎の修得が可能
- 美術大学の特徴である【講評】を通じて、主観の交差、新たな視点を創出

② アピールポイント

- アート・デザイン教育の専門家・研究者を中心とした実践的な講師陣
- 美術大学の100年にわたる造形教育の蓄積を活かし、社会イノベーションに貢献できる人材を育成
- 本学通信教育課程および大学院造形構想研究科クリエイティブリーダーシップコースのカリキュラムをベースに展開
- 修了者にはデジタルバッジを発行予定
 - 獲得スキルの社内外への可視化が可能で、リーダーシップの証明や企業としての先進性や教育への投資姿勢のアピールをすることが可能

建築DX人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 建築DX人材育成プログラム

② 目的

- 完全BIM化における価値創造と価値獲得を構想し実行できる設計事務所経営人材の育成
- 都市のDX化、デジタル・ツイン化を推進

③ 対象者層

- 徳島県建築士事務所協会 会員

④ 育成する人物像

- BIMが業界全体に浸透することにより、企画・設計・各種コンサルタント・施工・運営・管理・保守・リノベーション・解体に至る全ての関係者が同じファイルを活用できるよう、プロセスのデジタル化を図るための建築デジタル人材

申込方法

- 九大OIP株式会社ビジョンドリブンチームリカレント教育グループ
(出願期間：2025年8月11日～8月29日)

担当連絡先

- 藍谷鋼一郎、人間環境学研究院・D-Be部門・教授
E-mail：aitani.koichiro.195@m.kyushu-u.ac.jp
Tel：092-802-5383

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 九州大学建築DX人材育成講座モジュール
 - 座学と実習から必要な科目を選んで受講可能なフレキシブルな履修体制により裾野を広げる。※オンライン科目のみの受講も可能
- 座学
 - デジタル測量学特論（2単位）オンデマンド
 - 建築環境エネルギーシミュレーション演習（2単位）オンサイト（休日のみ）
 - 3Dモデリング演習（4単位）ハイブリッド（夜間・休日）
- 実習
 - AI・ロボティクス（2単位）ハイブリッド・オンサイト（夜間・休日）
 - デジタル測量実習（2単位）オンサイト（休日のみ）

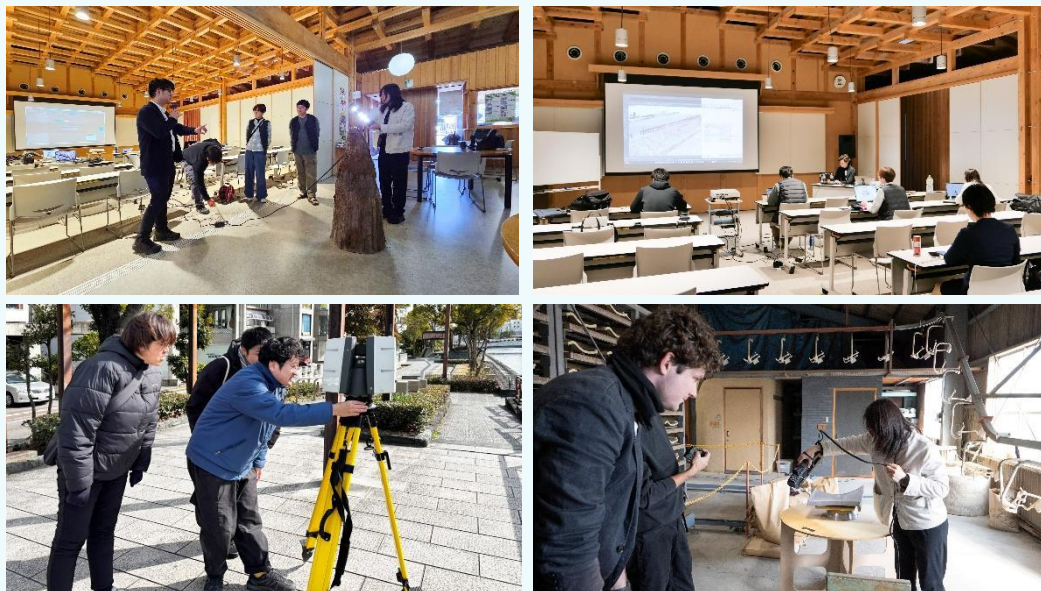
② アピールポイント

- 修了者には、マイクロレデンシャルフレームワーク1.0（※）を参照してメタデータ項目を設定したデジタルバッジを発行
※大学の国際化促進フォーラム、Japan Virtual Campus運営員会、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協会の3団体合同によって設立されたマイクロレデンシャル共同WGにおいて2023.3.27に作成されたもの
- 受講者には、大学院進学（修士課程・博士課程）や1年間（12単位）の「建築デジタル人材育成プログラム」などへの接続により、更なる学習機会を確保

建築DX人材育成プログラム

プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 4名（単発の講演会では170名）

実際のプログラム実施内容

- 講義・演習：出張型・全12回（環境シミュレーション、デジタル測量、AI・デジタルファブリケーションに関する講義・演習）
- 講義・演習：オンライン全7回（BIMに関する講義・演習）
- 実習：全6回（先進的な機器を使った現地デジタル測量）

成果サマリー

満足度

※今後更新予定

受講生を輩出した企業の声

受講生の声

波及・今後

- 来年度も本プログラムを拡大実施（オンライン・オンデマンドを強化）
- 修了者には、より専門的な内容を扱う上位DXプログラムの受講を推奨
- 修了者同士の継続的な情報交換・学びの場を検討中

建築DX人材育成プログラム

プログラム詳細

2025年度 徳島リカレントプログラム講義等予定表(10~3月)

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日	行事/講義	日	行事/講義	日	行事/講義	日	行事/講義	日	行事/講義	日	行事/講義
1	水	1	土	1	月	1	木	1	日	1	日
2	木	2	日	2	火	2	金	2	月	2	月
3	金	3	月	3	水	3	土	3	火	3	火
4	土	4	火	4	木	4	日	4	水	4	水
5	日	5	水	5	金	5	月	5	木	5	木
6	月	6	木	6	土	6	火	6	金	6	金
7	火	7	金	7	日	7	水	7	土	7	土
8	水	8	土	8	月	8	木	8	日	8	日
9	木	9	火	9	火	9	金	9	月	9	月
10	金	10	水	10	水	10	土	10	火	10	火
11	土	11	木	11	木	11	日	11	水	11	水
12	日	12	火	12	金	12	月	12	木	12	木
13	月	13	水	13	土	13	火	13	金	13	金
14	火	14	木	14	日	14	水	14	土	14	土
15	水	15	火	15	月	15	木	15	日	15	日
16	木	16	土	16	火	16	金	16	月	16	月
17	金	17	日	17	水	17	土	17	火	17	火
18	土	18	木	18	木	18	日	18	水	18	水
19	日	19	火	19	金	19	月	19	木	19	木
20	月	20	水	20	土	20	火	20	金	20	金
21	火	21	木	21	日	21	水	21	土	21	土
22	水	22	火	22	月	22	木	22	日	22	日
23	木	23	水	23	火	23	金	23	月	23	月
24	金	24	木	24	水	24	土	24	火	24	火
25	土	25	火	25	木	25	日	25	水	25	水
26	日	26	水	26	金	26	月	26	木	26	木
27	月	27	木	27	土	27	火	27	金	27	金
28	火	28	金	28	日	28	水	28	土	28	土
29	水	29	土	29	月	29	木			29	日
30	木	30	日	30	火	30	金			30	月
31	金			31	水	31	土			31	火
備考	*10/9 3Dモデリング演習はオンラインで実施 **10/16 山梨知彦氏(株式会社日建設計)特別講演午後5時~7時	備考		備考		備考	1/17,1/24,2/14 3Dモデリング実習、追加講義については詳細を記述する予定。	備考		備考	

※デジタル測量系、AIロボティクス系は以下の日時で行う。
 デジタル測量系：土曜日13時~15時半、日曜日13時~15時半
 AIロボティクス系：土曜日16時~18時半、日曜日9時~12時

徳島リカレントプログラム講義名	
建築環境エネルギー系	環境SIM：建築環境エネルギーシミュレーション演習 場所：人材育成棟
AI・ロボティクス系	AI・Rob：Digital Fabrication Studio 場所：人材育成棟
デジタル測量系	測量：デジタル測量実習 場所：人材育成棟
3Dモデリング系	3D：3Dモデリング演習 場所：オンライン
徳島実測	徳島実測：デジタル測量実習の続き 場所：別紙掲載

開講時間等	
平日開講（福岡）	18:00~21:00 (デジタル測量実習は18:00~20:00)
土日開講（福岡）	9:00~12:30
土日開講（徳島）	次ページ参照
注2)	終了時間は多少前後する場合があります。
注3)	土日開講の場合、授業の内容によって場所・時間を設定します(各講師から事前にアナウンスがあります)。

異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム

プログラム概要

① 名称

- 異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム

② 目的

- 新たな労働力創出に繋がる「DXスキルと価値創造的デザイン思考を身につけた新時代の分野横断的高度人材」を育成する。これにより、労働移動と企業の成長に直接貢献することを目指す

③ 対象者層

- 人材のリスキングを望む企業や、最新の知識や技能を学びたい個人

④ 育成する人物像

- DXスキルと価値創造的デザイン思考を身につけた新時代の分野横断的高度人材
- 人文知とコンセプチュアルスキルを活用し、組織内の雰囲気や人間関係の向上に貢献できる人材（企業経営者、人事担当者など）
- 多様な人々の能力が発揮できる組織作りを推進する、エンパワメントを促す省察的実践者（企業経営者、人事担当者、対人サービス従事者、カウンセラーなど）
- デジタル技術と人的ネットワークを駆使し、地域活性化を主導できる観光人材（DMO・自治体職員、サステナブルコーディネータなど）
- ビッグデータを活用した実験をデザインし、DXの専門知識を応用して付加価値の高い製品・サービスを創出できる人材
- 健康管理に関する新たな社会サービスやアプリケーションを実装できる人材

申込方法

- 神戸大学リカレント教育推進室ホームページから申込
<https://www.office.kobe-u.ac.jp/ofpre-recurrent/>

担当連絡先

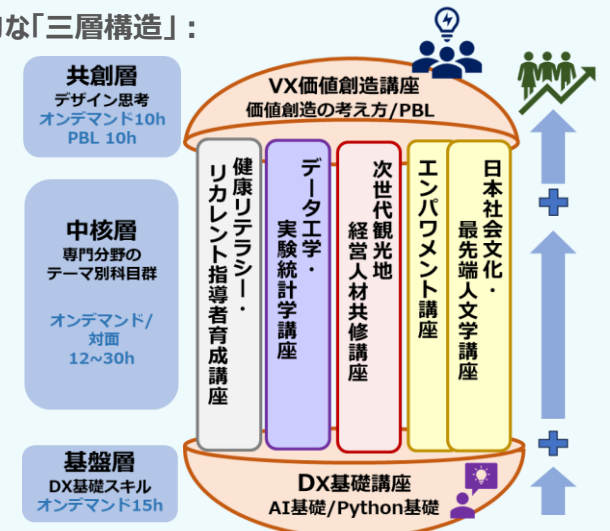
- 神戸大学リカレント教育推進室
E-Mail : ofpre-recurrent@office.kobe-u.ac.jp Tel : 078-803-5112

カリキュラム内容

A カリキュラム特徴

- 総合大学の強みを活かした分野横断的な「三層構造」:

- 基盤層（デジタルトランスフォーメーションDX）：デジタル時代に必須の実践的なDX基礎スキルを学ぶ
- 中核層（専門知）：高度専門分野のテーマ別科目群を並列して開講し、ニーズに応じた選択受講が可能
- 共創層（バリュートランスフォーメーションVX）：イノベーションに不可欠な創造的価値を生み出すデザイン思考・システム思考を学ぶ「価値創造講座」を開講



- 多様な受講形式と柔軟な受講体系:

- 座学は主にオンデマンドやオンラインで提供され、PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）は対面の少人数単位で実施
- 各層の科目を単独で受講することも可能であり、部分受講にも対応

B アピールポイント

- 修了者にはデジタルバッジを発行予定

- 三層を組み合わせ受講し修了した者には、「オープンバッジ（異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム）」が授与される

異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム

プログラム内容

プログラム写真



中核層の一講座の实地研修風景（京都美山かやぶきの里にて）

受講者数

- 150名（基盤層を含めると690名）

実際のプログラム実施内容

- 基盤層・中核層・共創層の3層で合計12科目開講
- オンデマンド（座学）と対面（研修等）を組み合わせ実施

成果サマリー

満足度

- 94.3%（「非常に満足」「満足」と回答した受講者の割合）
（基盤層を含めると90.5%）

受講生を輩出した企業の声

- DXスキルの修得に加え、講座内容の多様性と質の高さ、他業種との交流が期待できる
- 個社では対応できない専門領域のスキルアップ支援として有効

受講生の声

- 受講前とはデータを見る目と感覚が明らかに変わりました
- 業務に直結する内容だったので、すんなり頭に入ってきました
- 今回の講義で大学の講義に対する期待感が高まり、関連する講義シリーズも受講したいと考えています

波及・今後

- 来年度も本プログラムを拡大実施予定
- 各科目の修了生には学びを深めるために他の層の科目の受講を推奨
- より専門的な学びを希望する修了生には大学院での学びを推奨

異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム

プログラムの詳細

総合大学の強みを活かした分野横断的な「三層構造」で12科目開講

・**基盤層（デジタルトランスフォーメーション：DX）** DX基礎講座:デジタル時代に必須の実践的なDX基礎スキルを学ぶ

★データサイエンス・AI基礎（15時間/オンデマンド：6月以降の受講開始から90日間）

★Python基礎演習（15時間/オンデマンド：6月以降の受講開始から90日間）

・**中核層（専門知）** 高度専門分野のテーマ別科目群を並行して開講し、ニーズに応じた選択受講が可能

★日本社会文化講座（30時間/オンデマンド：11月以降の受講開始から90日間）

★人文学を解き放つ（16時間/オンデマンド：11月以降の受講開始から90日間）

★エンパワメント講座（35時間/対面・オンデマンド：9月~2月）

★観光地域づくりのための次世代人材育成講座（22時間/対面・オンデマンド：11月~2月）

★データエンジニアリング基礎（15時間/オンデマンド：8月以降の受講開始から90日間）

★実験科学のための統計学ハンズオン（30時間/オンデマンド：8月以降の受講開始から90日間）

★健康リテラシー講座（12時間/オンデマンド・オンライン：12月~1月）

★リカレント指導者育成講座（12時間/対面・オンライン・オンデマンド：8月）

・**共創層（バリュートランスフォーメーション：VX）** イノベーションに不可欠な創造的価値を生み出すデザイン思考・システム思考を学ぶ

★価値創造の考え方（10時間/オンデマンド：1月以降の受講開始から60日間）

★価値創造実践ワークショップ（10時間/対面：2月）

修了者にはデジタルバッジを発行予定

三層（★☆☆のいずれか）を組み合わせ受講し、修了した者には「オープンバッジ（異分野共創・価値創造リカレント教育プログラム）」が授与される（各層の科目を単独で受講することも可能）

